

## 次期学習指導要領のねらいを探る

# 「一人ひとりの生徒を主語にする学び」とは 今からどのように取り組むか

### 【掲載講演録】

#### 自由進度学習

一斉授業は自由進度学習にとって替わられるのか？ ～実践を通じて感じたこと～

長崎県立諫早高等学校 教諭 後田 康蔵

#### 自立型探究学習

市立札幌藻岩高校が目指す「総合探究」を中心としたカリマネ

～恋する生徒の作り方～

市立札幌藻岩高等学校 教諭 長井 翔・千葉 建二

産業能率大学 教授 齊藤 弘通

# 報告書

## 自由が丘開催

開催日：2025年8月3日（日）

会場：産業能率大学 自由が丘キャンパス

主催：産業能率大学

後援：東京都教育委員会 神奈川県教育委員会 埼玉県教育委員会  
千葉県教育委員会 神奈川県私立中学高等学校協会

次期学習指導要領のねらいを探る

「一人ひとりの生徒を主語にする学び」とは  
今からどのように取り組むか

フォーラムのねらい

今回のフォーラムでは、次期学習指導要領を探ると題し、論点となる多様性の包摂、AIやICTの利活用、学びのユニバーサルデザイン等について理解を深め、同時に現状の授業改善、学校マネジメントの改善に貢献することを目的としています。

|      |                         |    |                                                           |
|------|-------------------------|----|-----------------------------------------------------------|
| 開催日時 | 2025年8月3日（日）10:00～17:30 | 主催 | 産業能率大学                                                    |
| 会場   | 産業能率大学 自由が丘キャンパス        | 後援 | 東京都教育委員会、神奈川県教育委員会<br>埼玉県教育委員会、千葉県教育委員会<br>神奈川県私立中学高等学校協会 |
| 定員   | 150名                    |    |                                                           |
| 参加費  | 4,000円 ※軽食込み            |    |                                                           |

|             |                                         |                                                                                      |
|-------------|-----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 10:00～10:25 | [ オープニングセッション ]                         | 立命館宇治中学校・高等学校<br>酒井 淳平 先生<br>ベネッセ教育総合研究所 主席研究員<br>独立行政法人教職員支援機構（NITS）フェロー<br>山下 真司 氏 |
| 10:25～12:25 | [ 基調講演 ]<br>次期学習指導要領の方向性～検討する上での課題について～ | 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 課長<br>武藤 久慶 氏                                                    |
| 12:40～13:10 | [ 対談 ]                                  | 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 課長<br>武藤 久慶 氏<br>ベネッセ教育総合研究所 統括責任者 教育イノベーションセンター長<br>小村 俊平 氏     |
| 13:10～14:00 | 昼食休憩 & 教室移動                             |                                                                                      |
| 14:00～16:00 | A 自由進度学習                                | 後田 康蔵 先生（長崎県立諫早高等学校）                                                                 |
|             | B 学びのユニバーサルデザイン                         | 市川 泰斗 先生（宮城県松山高等学校）                                                                  |
|             | C 主体性育成                                 | 原 史也 先生（福岡県立ありあけ新世高等学校）                                                              |
|             | D 生成AI×教育活動                             | 神谷 隼基 先生（静岡サレジオ高等学校）                                                                 |
|             | E 教科×生成AI活用                             | 銘苅 奈苗 先生（千代田区立九段中等教育学校）                                                              |
|             | F 自立型探究学習                               | 長井 翔 先生（市立札幌藻岩高等学校）<br>千葉 建二 先生（市立札幌藻岩高等学校）                                          |
| 16:20～17:00 | [ 対話/振り返りセッション ]                        | 立命館宇治中学校・高等学校<br>酒井 淳平 先生<br>ベネッセ教育総合研究所 主席研究員<br>独立行政法人教職員支援機構（NITS）フェロー<br>山下 真司 氏 |
| 17:00～17:30 | エンディングセッション&名刺交換会                       |                                                                                      |

|                                                      |  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |  |
|------------------------------------------------------|--|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 登壇者プロフィール                                            |  | SANNO ACTIVE FORUM2025                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |  |
| 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 課長<br>■ 武藤 久慶 氏                  |  | 平成12年文部省入省。教育課程企画室、人事院長期在外研究員（ハーバード教育大学院、ボストンカレッジTIMSS&PIRLSセンター客員研究員）等を経て、北海道教委に4年間出向し、教育政策課長、義務教育課長、学校教育局次長などを務める。その後、教育制度改革室長補佐、外務省一等書記官（在ブラジル日本国大使館広報文化班長）、高等教育政策室長（併）学校教育局企画官、大学入試改革プロジェクトチーム担当企画官、大臣官房総務課副長、初等中等教育局企画官、学校デジタル化プロジェクトチームリーダー（併）就学支援・教材課長（併）GIGASTuDX推進チーム統括ディレクター（併）デジタル庁参事官などを経て、令和6年4月より現職に就任。                                                                                                         |  |
| ベネッセ教育総合研究所 統括責任者<br>教育イノベーションセンター長<br>■ 小村 俊平 氏     |  | 民間シンクタンクを経て、2006年にベネッセコーポレーション入社。全国の自治体・学校とともに次世代の学びの実践と研究に携わる。これまで複数の学校設立、学校改革やカリキュラム開発に携わる。2020年よりベネッセ教育総合研究所次世代の学び研究室主席研究員、2022年よりベネッセ教育総合研究所教育イノベーションセンター長、株式会社ベネッセホールディングス経営企画推進本部副本部長を兼務。2015年～2020年まで日本イノベーション教育ネットワーク（協力OECD）事務局長/東京大学公共政策大学院客員研究員として産学連携コンソーシアムの企画運営に従事し、OECD Education2030の国際会議に参加。2017年から2023年まで岡山大学学長特別補佐を務めた。現在、一般社団法人ICT CONNECT 21 理事、一般社団法人日本教育情報化振興会常任理事、日本STEM教育学会幹事、中央大学人文科学研究所客員研究員等も務める。 |  |
| 長崎県立諫早高等学校<br>■ 後田 康蔵 先生                             |  | 職歴：教職29年目（本校14年目） 現勤務校では、進路指導主事、教務主任を経て、現在、長崎県の指導教諭（探究部門）を務める。<br>表彰歴：文部科学大臣優秀教職員表彰、キャリア教育優良学校文部科学大臣表彰、長崎県教育委員会表彰<br>その他：「進路指導におけるジェンダーバイアス」の学術研究や「東京財団研究協力者」も務めている。                                                                                                                                                                                                                                                          |  |
| 宮城県松山高等学校<br>■ 市川 泰斗 先生                              |  | 教員歴14年目。青森県立八戸高校、東北大学理学部数学科卒業後、青森県立田名部高校に5年勤務。県外視察で訪れた鈴鹿高校で岩佐純巨先生と出会い、刺激を受け協同学習に挑戦。青森県立青森高校で5年勤務後に、新たに宮城県で採用になり、宮城県松山高校に勤務。「学びの多様性を活かした教育プログラム開発事業」のモデル校として、学校全体で学びのユニバーサルデザイン（UDL）の授業実践に挑戦。今年度4月より東北大学大学院教育研究科教育政策科学コースでの派遣研修に取り組んでいる。                                                                                                                                                                                       |  |
| 福岡県立ありあけ新世高等学校<br>■ 原 史也 先生                          |  | 中学校の講師を1年間経験し、今年、教員歴6年目の理科教員。2024年11月のALくまもと探究型授業づくり実践講座に授業者として登壇。中学校から起こる理科離れの原因を理科＝暗記科目と生徒が認識していることだと捉え、どうしたら理科に興味を持ってもらえるかを模索している。日常生活と授業で扱う事象との繋がりがこそが生徒が理科を学びたいと思える理由であり、それを引き出すためにどのような問いや仕組みが必要か、どのような実験が適しているかを考えながら授業デザインに取り組んでいる。                                                                                                                                                                                   |  |
| 学校法人星美学園 静岡サレジオ高等学校<br>■ 神谷 隼基 先生                    |  | 2016年より静岡県立高等学校で数学教師として勤務し、校務改善や1人1デバイスの活用推進に尽力。2024年に静岡サレジオ高校へ転職。その際に情報科へと転身。情報をVUCA時代の基幹教科と位置付け探究ベースの授業を日々模索中。近年は、生成AIの教育活用に心酔しており、実践及び情報発信を行っている。                                                                                                                                                                                                                                                                          |  |
| 千代田区立九段中等教育学校<br>■ 銘苅 奈苗 先生                          |  | 教員18年目。在外日本人学校や進路多様校での勤務を経て、現任校2年目。多様な生徒との出会いの中で、授業スタイルを日々試行錯誤しています。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |  |
| 市立札幌藻岩高等学校<br>■ 長井 翔 先生                              |  | 教員歴20年（現任校9年目）。探究委員長、年次主任、進路指導主事を歴任。今年度、生徒一人ひとりの「やってみたい」や「ありがたい姿」に寄り添い、キャリアと学びをつなぐ新組織「ミライデザイン部」を立ち上げ、探究と進路の一体的な支援体制を推進。学校内外の多様な人・地域・機会とつながるキャリア教育に取り組んでいる。                                                                                                                                                                                                                                                                    |  |
| 市立札幌藻岩高等学校<br>■ 千葉 建二 先生                             |  | 教員歴15年目。北海道立高校勤務3年を経て、母校である市立札幌藻岩高校に赴任。高校時代から硬式テニスの強豪校である母校での部活動指導に憧れを持って教員となるが、2017年度に1から母校の探究学習について再構築する中で様々な葛藤を経て、今では「誰かのやりたいことを全力で応援する」ことを使命として教員人生を送っている。その後、総合探究を中心としたカリマネを学校文化として根付かせるために、学校内組織づくりや外部人材との関係構築などを進め、キャリア教育と探究を有機的に繋げる新分掌（ミライデザイン部）の立ち上げや学校と地域を繋ぐコーディネーターとの新しい形でのコラボレーションなどに力を注いでいる。                                                                                                                     |  |
| 立命館宇治中学校・高等学校<br>■ 酒井 淳平 先生                          |  | 2008年度にキャリア教育部の立ち上げを推進。2018年度には日本版コア科目「総合的な探究の時間」の研究開発学校、2019年度～2021年度にはWWL（ワールド・ワイド・ラーニング）カリキュラムの開発拠点校の指定をそれぞれ文部科学省から受け、探究×キャリア教育を大切に「総合的な探究の時間」のカリキュラム開発に挑戦。著書に「『探究』の現在地とこれから 高等学校 探究時代のキャリア教育と教科学習のデザイン」「高等学校新学習指導要領数学の授業づくり」など。                                                                                                                                                                                           |  |
| ベネッセ教育総合研究所 主席研究員<br>独立行政法人教職員支援機構 フェロー<br>■ 山下 真司 氏 |  | 高等学校学習指導要領「総合的な探究の時間」（平成30年告示）解説作成検討メンバー、岡山県教育委員会 STEAM教育研究推進委員会、神奈川県総合教育センター 助言会議委員、広島県三次市教育委員会 教育スーパーアドバイザー、福井県小浜市教育委員会 教育大綱検討委員、北海道立札幌西高校探究アドバイザー、学校法人追手門学院評議員、名古屋市立若宮高等特別支援学校 学校評議員、月刊『高校教育』編集アドバイザーなどを務める。全国各地の学校や教育センターなどで講演・研修会の実績多数。                                                                                                                                                                                  |  |
| 産業能率大学 経営学部<br>■ 齊藤 弘通                               |  | 慶応義塾大学文学部人間関係学科教育学専攻卒業後、法政大学大学院政策科学研究科修士課程、法政大学大学院政策創造研究科博士後期課程終了。博士(政策学)。専門社会調士。学校法人産業能率大学総合研究所を経て現職。専門は、人材育成論、質的研究法。民間企業の若手社員育成、ミドルシニア育成の研修にも数多く携わる。                                                                                                                                                                                                                                                                        |  |

本報告書は以下の講座を抜粋して掲載しております。

## もくじ

※敬称略

### 自由進度学習

一斉授業は自由進度学習にとって替わられるのか？ ～実践を通じて感じたこと～

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4P

長崎県立諫早高等学校 教諭 後田 康蔵

### 自立型探究学習

市立札幌藻岩高校が目指す「総合探究」を中心としたカリマネ

～恋する生徒の作り方～・・・・・・・・・・・・・・・・ 27P

市立札幌藻岩高等学校 教諭 長井 翔・千葉 建二

産業能率大学 教授 齊藤 弘通

## 講演者プロフィール（掲載講座のみ）

### ■後田 康蔵

#### 長崎県立諫早高等学校 教諭

職歴：教職 29 年目（本校 14 年目） 現勤校では、進路指導主事、教務主任を経て、現在、長崎県の指導教諭（探究部門）を務める。

表彰歴：文部科学大臣優秀教職員表彰、キャリア教育優良学校文部科学大臣表彰、長崎県教育委員会表彰

その他：「進路指導におけるジェンダーバイアス」の学術研究や「東京財団研究協力者」も務めている。

### ■長井 翔

#### 市立札幌藻岩高等学校 教諭

教員歴 20 年（現任校 9 年目）。探究委員長、年次主任、進路指導主事を歴任。今年度、生徒一人ひとりの「やってみたい」や「ありたい姿」に寄り添い、キャリアと学びをつなぐ新組織「ミライデザイン部」を立ち上げ、探究と進路の一体的な支援体制を推進。学校内外の多様な人・地域・機会とつながるキャリア教育に取り組んでいる。

### ■千葉 建二

#### 市立札幌藻岩高等学校 教諭

教員歴 15 年目。北海道立高校勤務 3 年を経て、母校である市立札幌藻岩高校に赴任。高校時代から硬式テニスの強豪校である母校での部活動指導に憧れを持って教員となるが、2017 年度に 1 から母校の探究学習について再構築する中で様々な葛藤を経て、今では「誰かのやりたいことを全力で応援する」ことを使命として教員人生を送っている。その後、総合探究を中心としたカリマネを学校文化として根付かせるために、学校内組織づくりや外部人材との関係構築などを進め、キャリア教育と探究を有機的に繋げる新分掌（ミライデザイン部）の立ち上げや学校と地域を繋ぐコーディネーターとの新しい形でのコラボレーションなどに力を注いでいる。

### ■齊藤 弘通

#### 産業能率大学 教授

慶應義塾大学文学部卒業、法政大学大学院政策創造研究科博士課程修了。博士（政策学）。産業能率大学総合研究所を経て現職。大学では「人材育成論」などの科目を担当。高等教育機関における社会人教育の実態や学修効果、組織における従業員の主体的かつ継続的な能力開発のあり方などを調査・研究。著書に『キャリア後期の生き方・働き方を考える』（産業能率大学総合研究所，2021 年）など。

## 授業実践研究会セッション

テーマ

自由進度学習

一斉授業は自由進度学習にとって替わられるのか？

～実践を通じて感じたこと～

長崎県立諫早高等学校 教諭

後田 康蔵 先生

はじめに

- 1 自由進度学習を始めた理由
- 2 実践報告
  - (1)自己調整学習
  - (2)反転学習
  - (3)どのように授業設計をしたのか？
- 3 自己調整学習を実践してわかったこと

## はじめに

皆さんこんにちは。私は長崎県立諫早高校から参りました、後田と申します。よろしくお願いします。

私は教員として授業もやっていますが、半分は研究者として研究しています。今日お話することもその研究の一環です。

というわけで、生徒が実際にどんな反応をするかを見ながら集めていった研究内容の一環をお話させていただきたいと思います。

### 1 自由進度学習を始めた理由

私がなぜ自由進度学習を始めるに至ったか、少しお話しします。

最初に感じたのはコロナ禍です。そのときによく、生徒の学びが止まったことが問題になりました。しかし、生徒の学びが止まったことが問題だったのではなく、学びを止めてしまうような指導をしていたことが問題だったのではないかと思ったのです。我々は先生がいないと学べない生徒をたくさん育てていたのではないかという違和感がスタートでした。

アクティブラーニングという言葉が出てきた頃、授業中に「はい、話し合って」とみんなやっていましたね。生徒は本当にこの瞬間に話し合いをしたいと思っているのかな、と疑問に思いました。対話を学校でやる取り組みも本校ではやっていますが、やはり対話をしたいと思う子どもたちが集まってこそ対話は成立する。「はい、対話して」で始まるものは対話ではないのではないか。教員が「はい、3分考えて」と言うけれど、3分で答えが出ることを考えて、意味があるのかなという違和感もありました。

そして、これは教員あるあるですが、私もわかっていながらいつもそうになってしまうのは、1回の授業で生徒全員がすべての内容を理解しているという前提になっていること。そんなことは絶対にないと先生方はわかっているのに、です。だから、テストで点が取れなかったら「あいつら～」となる。けれども、そもそもみんなが理解しているとは限らないし、ちゃんと理解している子もいればそうでない子もいる。バラバラなんですね。

授業力とよく言われますが、例えば授業で滑らかに説明することが授業力なのか？本当の授業力とは、授業が終わっても学びたいと思うエネルギーを、いかにシステムとして作るか、ではないのか。最近、そう思い始めています。

自由進度学習を先生方の多くが嫌がるのは、「じゃあ、自由にやって」と始まるものだと、おそらく思っているから。そんなことはないんです。それだと自由進度学習は全然成り立たない。先ほどの武藤さんの話にもあったように、学び方がわかっていないというのが一番の悩みですから、「自由に」と言われても絶対にできない。

私が今やっている自己調整学習は、研究に基づいているので、もちろんいろいろな学習理論に適しています。それをどこでやっているのかというと、個別塾などがやっているんですね。

そうすると、マンツーマンと多額のお金がないと成立しないのが自己調整学習なのかなと思われませんが、私はこれをいかに授業の中に実装できるかと考えています。

もともと自己調整学習や自由進度学習は、小学校とか、指導困難校と言われる学校で、いかに学ぶ意欲を高めていくかといって始まったものです。私の勤めている学校はいわゆる進学校ですが、そういう学校でもできるんじゃないか、実装してみたいなと思った。ですから、先生方がいらっしゃる学校とは様子が違ったりするかもしれませんが、参考になるところはたくさんあると思います。

授業で私が絶対にやりたいと思ったのが、50分間フルでアウトプットし続ける授業。つまりインプットが50分の中に全く存在しない授業です。

私の担当は物理です。習わないとできない、独学なんて絶対無理という感覚が特にある教科だと思うのですが、そこをどうにかしたい。それには“最近接領域モデル”、いわゆるちょうどいいハードル、ちょっと背伸びすれば何とか届く難易度を設定して、そこをクリアするようなデザインをする。そして、自己流を選ばせるようにしています。

塾に行っている生徒の中には「塾の教材やっていますか」と言う子もいるのですが、そこはある程度の制限をかけながら、しかし生徒にも自由を与えながら、何とかやっつけられないものかと考えた。これから、そういうお話をしようと思います。

## 2 実践報告

### (1)自己調整学習

一斉授業と自由進度学習のどちらが優れているかについて言うつもりは、全くありません。それぞれに長所があって、先生方のキャラクターによっても違うと思います。どちらをどれくらい取り入れるかは、1年間でも生徒の状態は違いますし、学校によっても違います。ですから、2つをうまく使い分けすることの大切さを、今日はぜひお伝えしたいと思っています。

まず、自由進度学習で私がやっているのは自己調整学習ですが「このスライドは自由進度学習と自己調整学習の違いを表にまとめて」とプロンプトして chatGPT に作らせたものです。

| <b>自由進度学習と自己調整学習（≠自習）</b> |                         |                                 |
|---------------------------|-------------------------|---------------------------------|
|                           | <b>自由進度学習</b>           | <b>自己調整学習</b>                   |
| <b>焦点</b>                 | <b>学習の進行速度</b>          | <b>学習の管理全般</b>                  |
| <b>主な目的</b>               | <b>自由に進めること</b>         | <b>効果的に学ぶこと</b>                 |
| <b>計画・管理の範囲</b>           | <b>限られた範囲<br/>速度と順序</b> | <b>学習全体のプロセス<br/>目標設定・計画・評価</b> |
| <b>フィードバック</b>            | <b>少ない</b>              | <b>自己フィードバック<br/>外部フィードバック</b>  |
| <b>実践例</b>                | <b>オンラインコース</b>         | <b>テスト準備やプロジェクト学習</b>           |

よく言われるのが、自習と何が違うのか、というもの。自由進度学習と自習は混同されがちです。私がやっている自己調整学習と自習との基本的な違いは、おそらく他人の存在がどれくらい大きいかということだと思います。

自己調整学習には、他者の目やフォロー、ペアでやっている生徒の存在が入ってきます。それをもう少し自分勝手にやると自由進度学習になり、完全に自由にやると自習になってしまう。そんなイメージでいいのかなと思います。

私が自己調整学習を始めて、今はバージョン3になっていますが、一般的に自由進度学習が持つ欠点とは何かということの一つひとつ解決した形を、まず作ろうと思ってやっています。

## 自己調整学習Ver. 3

- **学習者自身が進捗を自己管理するのが難しい。**
  - 反転授業を適正ペースメーカーにする。
  - 進度や学習内容が見える化する（すぐろくと計画表）
  - 観点別評価との関連も見える化（チェックポイントとして機能）
  - ペア学習による協働管理をする。
- **他の学習者との交流が少なくなる場合、モチベーションが低下する。**
  - ペア学習をベースとして進めていく。
  - 質問共有制度
- **デジタル教材の使用やアクセスが難しい場合がある。**
  - ICT（ロイロノート）

一般的に言われている欠点としては、学習者自身が進捗を自己管理するのが難しいこと。自由にかまけて勉強しなくなる、とかです。一緒に研究している大学の教授に聞いても、反転授業をやっている大学教授は結構いるらしいのですが、やめてしまう。その理由が、学生が反転授業をちゃんとやってこないから。それで頭に来てやめたというのがほとんどです。

それを解決するために、反転授業をいかに適正なペースメーカーとして使っていくかということ、まず考えました。

そして、進度や学習内容が見える化する。このあと出てきますが、すぐろくと計画表を使って、大体こういうペースでやっていくと明確にする。私が教材を作って提示していますが、それを使ってもいいし、自分で計画を立ててもいいというやり方です。このように、完全に自由にして「何を勉強したらいいかわかりません」という生徒が、基本的には出ないようにしています。

次に、観点別評価との関連も見える化する。そもそも観点別評価側の目線で、いわゆる見通しを立てる。どういう場合にAと評価されるのかがちゃんとわかっていないとダメだと言われているので、それを盛り込みます。

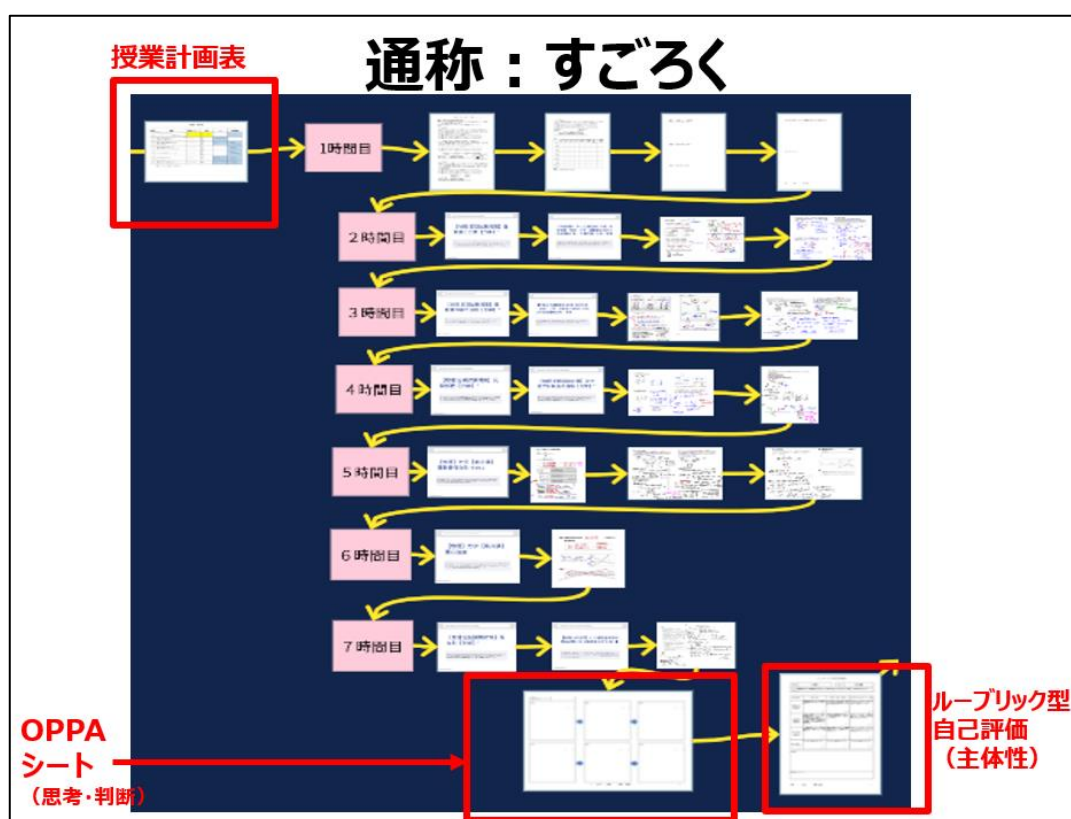
それから、ペア学習をすることによって協働管理をする。どうしても1人だとさぼってしまうこともありますので。

この4点を、解決策としてまず入れました。

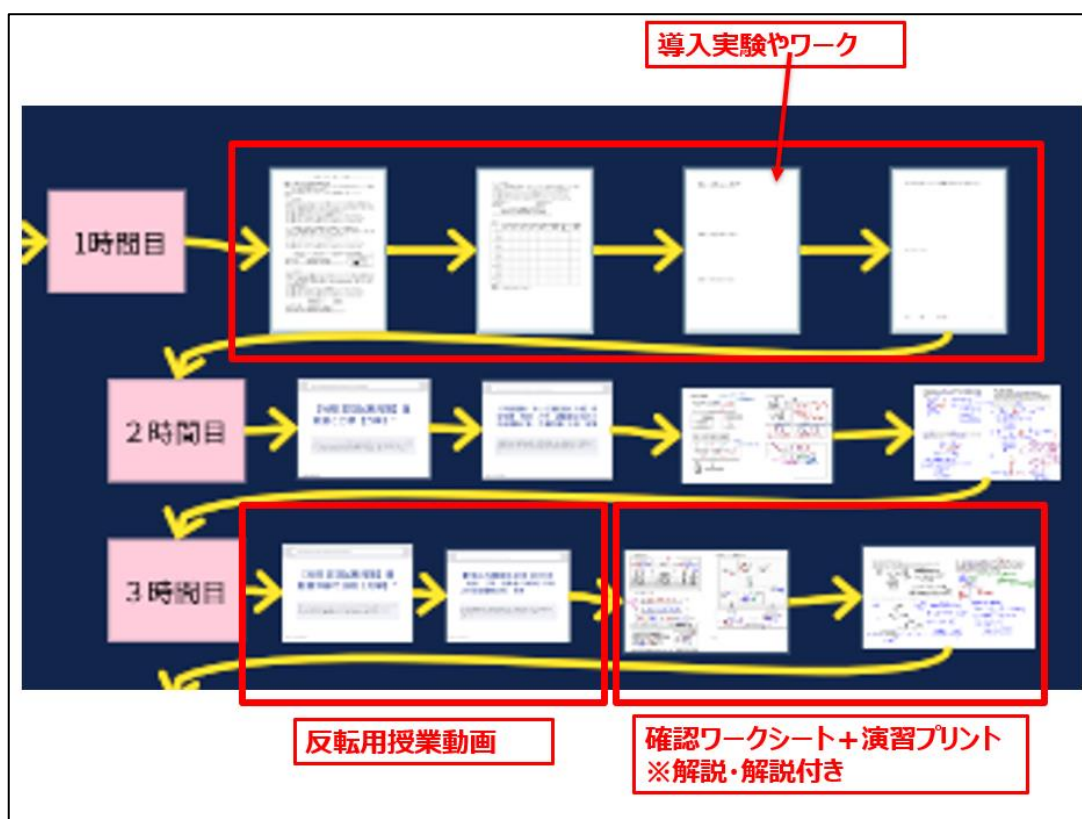
2番目の、他の学習者との交流が少なくなるとモチベーションが低下する。まさにコロ

ナ禍がそうでした。この対策には、先ほどのペア学習をベースとして進めていきます。それと、私の授業では50分のうち10分間だけ私が喋る時間があります。その日の反転授業の内容をさらに濃くしたものを喋るのですが、そのときの10分間、皆さんが思われる授業になります。これがないと、自由進度学習・自己調整学習で一番心配される場所、つまり「学校来なくていいじゃん」となってしまう。この解決のために、質問の共有制度というものを作っています。

3番目は、いかにうまくデジタル教材を使うか、です。私はロイロノート（株式会社LoiLoが提供する教育現場向けの授業支援クラウドサービス）を使って、実際にこれを行っています。



これが私のロイロノートの、ひとつの単元の絵です。左上に授業計画表があって、この中にサマリーが全部入っています。すごろくで1時間目から順々にやっていって、授業の単元の最後に論述テストとループリック型自己評価が入ってきます。



もう少し拡大すると、この1時間目の単位では何を勉強するのかについての足場かけ（学習者が1人ではできない課題を達成するために、支援者が一般的に提供する手助けや支援のこと）を行います。私はこれにちょっとしたこだわりがあって、導入に必ず1時間かけたいんです。物理という特に難解な教科でも、それがいかに自分の生活と直結しているのか、生活を通して理解ができるのかと実感させるようなワークや実験を、1時間目に行います。

ちなみに、この導入ワークは何回も出し直しが可能になっています。これは観点別評価のひとつである主体性評価に入っているのですが、授業をやっていくと「あ、ここってこう答えればよかったんだな」とわかってくるわけです。そのたびに解答を更新していくと、最初Cだった子がだんだんC+やBに上がっていった、最後に出た結果がその子の主体性評価になるという仕組みになっています。

そして授業動画が必ず入っていて、だいたい2つありますが、15分の動画で1時間を作るスピード感になっています。さらにワークシートがあって、演習プリントがある。いろんな工夫があります。

| 授業計画表        |                                                             |             |                          |                             |                           |
|--------------|-------------------------------------------------------------|-------------|--------------------------|-----------------------------|---------------------------|
| 反転用動画のテーマと時間 |                                                             | 対応する授業プリント  | 演習問題                     | 高次機能学習内容                    | 理解レベルを一段上げる発展問題           |
| 時間           | 動画                                                          | 授業プリント      | 演習                       | ☆                           | 発展課題                      |
| 1            |                                                             | 兵隊          | 兵隊プリント1枚目                |                             | 兵隊プリント2枚目                 |
| 2            | 【物理 運動試験対策】運動量と力積 (11:26)<br>【中堅運動における運動量と力積】 ..... (4:23)  | プリントP3～P6   | 問題2<br>問題3<br>問題1        | 多量と速度の関係を書き換えてみる。           |                           |
| 3            | 【物理 運動試験対策】運動量保存の法則(10:50)<br>【中堅上の運動量保存則】 ..... (5:17)     | プリントP7～P10  | 問題2<br>問題2<br>問題4        | 運動量テスト                      | 問題 応用問題5 5<br>木片への弾丸の打ち込み |
| 4            | 【物理 運動試験対策】質量保存 (10:41)<br>【物理 運動試験対策】質量では伝達する運動 (10:47)    | プリントP11～P13 | 問題5<br>問題3               |                             | 問題 応用問題5 8<br>壁との弾み衝突     |
| 5            | 力学【第29講】運動量保存則 その2 (10:16)                                  | プリントP14～P17 | 問題4<br>問題6<br>問題7<br>問題5 |                             | 問題 応用問題5<br>2物体の弾み衝突      |
| 6            | 力学【第31講】重心速度 (19:07)                                        | プリントP18     | 問題1                      | 多量と速度が0[m/s]で保存する運動の例を提示せよ。 | 問題 応用問題5 8<br>壁との弾み衝突     |
| 7            | 【物理 運動試験対策】 弾性衝突 (11:42)<br>【物理入試対策】 #18 運動量保存則振子の問題 (7:36) | プリントP19～P20 | 問題2                      | 多量と弾性衝突の成立条件を書き換えてみる。       | 問題 応用問題6 0<br>壁と小球の運動     |

※最後に、ループバックで自己評価をして活動を終了する。

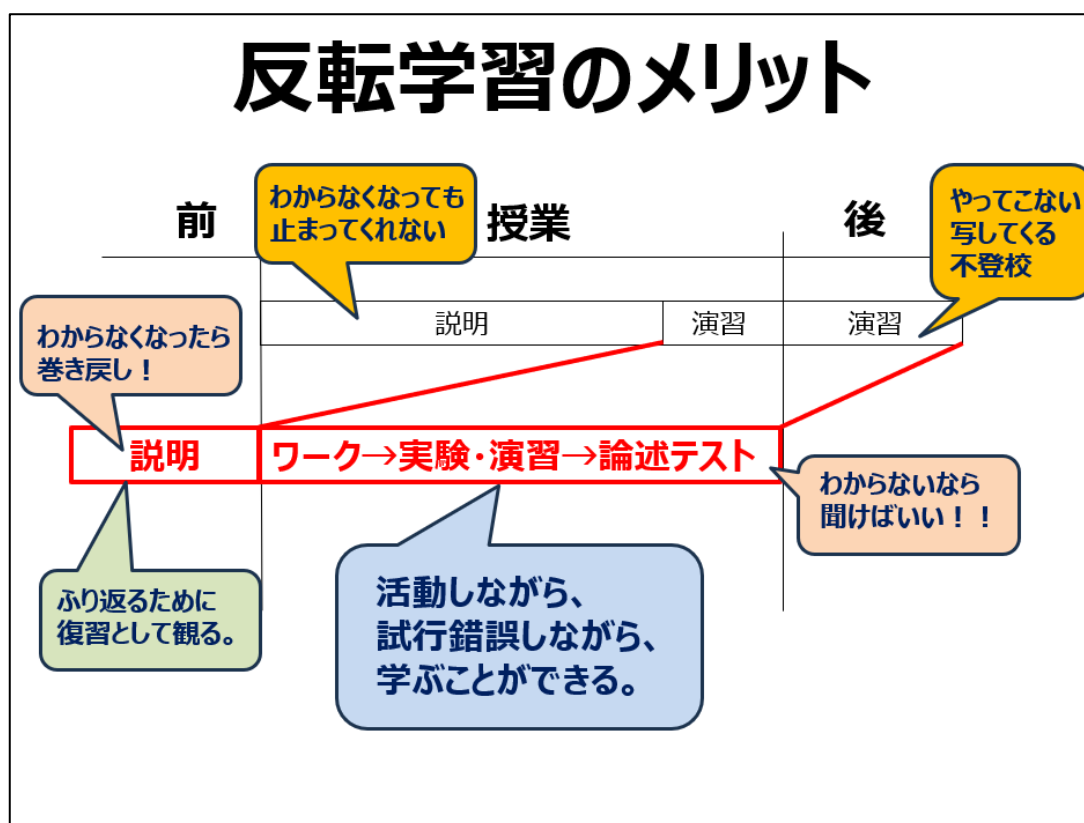
こういう授業計画表が、最初の単元に必ず入ってきます。

この通りにやればいいだけですが、まず動画を観て、授業プリントが並んでいく。そして演習問題。ここまでの「もし、この教材を使うなら必ずやりましょう」という部分です。そして高次機能学習に論述問題があって、ちょっとレベルの高い発展問題があります。とりあえず標準的なことをサーッとやる生徒もいれば、常に高いレベルにまで行く生徒もいます。

私の物理の場合、学期に1回ずつ期末テストがあって、その1か月後くらいに実力テストがあります。それが同じテスト範囲になっている。同じ範囲でも、期末テストでは演習問題までを勉強しておけばいいのですが、授業計画表の右2列が実力テストで使われる題材になっています。そのあたりを生徒たちは自分で考えながら、「じゃあ期末まではここをやって、夏休みの間に発展問題をやろう」などとペースを調整して進めていきます。

## (2)反転学習

私の自己調整学習の大きな要素が反転学習なのですが、これについても説明をしたいと思います。



反転学習は皆さんご存じだと思いますが、今までの授業で行っていたのは、説明・演習で、時間が足りないと「あとは宿題で」と授業後にはみ出していました。この説明の部分で、時間が足りないと「あとは宿題で」と授業後にはみ出していました。この説明の部分をギュッと縮めた15分の動画を、生徒は事前に観てくる。そして授業では、それを観たことで進められるスモールステップの課題が続いていき、それをペアでクリアしていく。さらに論述テストなどのいろいろな形のアウトプットをして50分が終わるという流れになっています。

私の研究の中では、自己調整学習自体は手段です。実はジェンダーについての研究をしていて、そのテーマは、理工系に進む女子生徒が少ないという状況です。これは、女子の数学や物理への苦手意識がどこかで生まれて、そこからこの状況がスタートするのではないかという仮説を立てて研究をしています。ですから、女子生徒がひとつのメインターゲットになっていて、自己調整学習を女子生徒のために入れているというのがポイントです。

まず女子生徒たちに、アンケートで何に困っているか聞きました。すると、先生の説明で1つわからないことがあったら、もうその先は頭に入ってこない。黒板を写すのが遅くて授業のスピードについていけない。結果的に何もわからなくて、当然、それがどんどん積もっていくらしいのです。でも、反転学習だと動画だから、わからなくなっても巻き戻せます。しかも何回でも繰り返し観ることができる。これは理系が苦手な女子生徒にとって大きなメリットになります。

反転学習の最大のメリットは、授業中に教師がフリーになれること。フリーだと、生徒

からの質問にいつでも対応できる。生徒の話し合いの声を聞くことができる。「この子はこういうふうに物事を考えているんだ」とか「この子は理解できていない。隣の子が指摘してくれたらなあ。あ、指摘してくれた」といった気づきがたくさんあります。当たり前ですが、一斉授業だとそういう声は絶対に耳に入ってきません。

また、やりたいことをすぐに実装できます。例えば、先ほどのお話にあった認知心理学でこういうよい方法があるらしいとなれば、「お、入れてみよう」となる。つまり 50 分間ずっとフリーなので、アドリブも柔軟に利かせられます。

さらに、評価が授業中にできる。観点別評価をやっていると自分の休み時間を取られてしまいます。私はロイロノート上で生徒たちが形にして出してくるので、その場で評価しています。ですから、休み時間に評価をすることはほとんどありません。反転学習は教師にとってたくさんのメリットがあるということは、やってみて実感しました。

ただし、繰り返しますが、反転授業をやってこない生徒がいることはデメリットです。しかし、やってこなかったとしても、極端に言うとも 50 分の授業のうち 15 分がその生徒にはインプットになるだけ。つまりアウトプットが 35 分になってしまうだけのことです。それで何かが大きく狂うわけではなく、フィードバックを何回もしていけばよいことです。

反転学習の実践率は、面白いもので女子は 100% に近いです。男子は 55%。かなりジェンダー差がありますが、男子もだんだんと上がっています。最初は面白がっていても、徐々に反転学習をしなくなるのは、おそらくデザインがよくない。だんだん上がっていくようにいかに仕向けるか。そのために重要なのは、私のような縦にいる人間ではなく、斜めの位置にいる人です。

例えば 2 年生がさぼり始めていたら、3 年生に反転授業のしくじり例をアンケートで出してもらおう。それを 2 年生が見ると、「ああ、まさにこれやわ」となる。そういう斜めの関係で修正していくこともできます。

## 準備が大変そう。

☐ **動画は、既成のものを使う！！**

→YouTube動画

**起（＝何をなぜ学ぶか）**

**承（＝教科書本体）**

→5分～10分の生授業

**転（＝例外、誤解、短絡の指摘）**

**結（＝伏線回収）**

☐ **教材は、みんなでつくる！！**

もうひとつ、よく言われるのが「準備が大変そう」というもの。私は、正直に言いますと動画はYouTube を使っています。何のプライドもなく使っていますが、さすがにコンテンツは選びます。物理はだいたい男の先生ばかりですから、女子生徒のためにも女性で物理を教えている人を探して、その先生の授業を使っています。

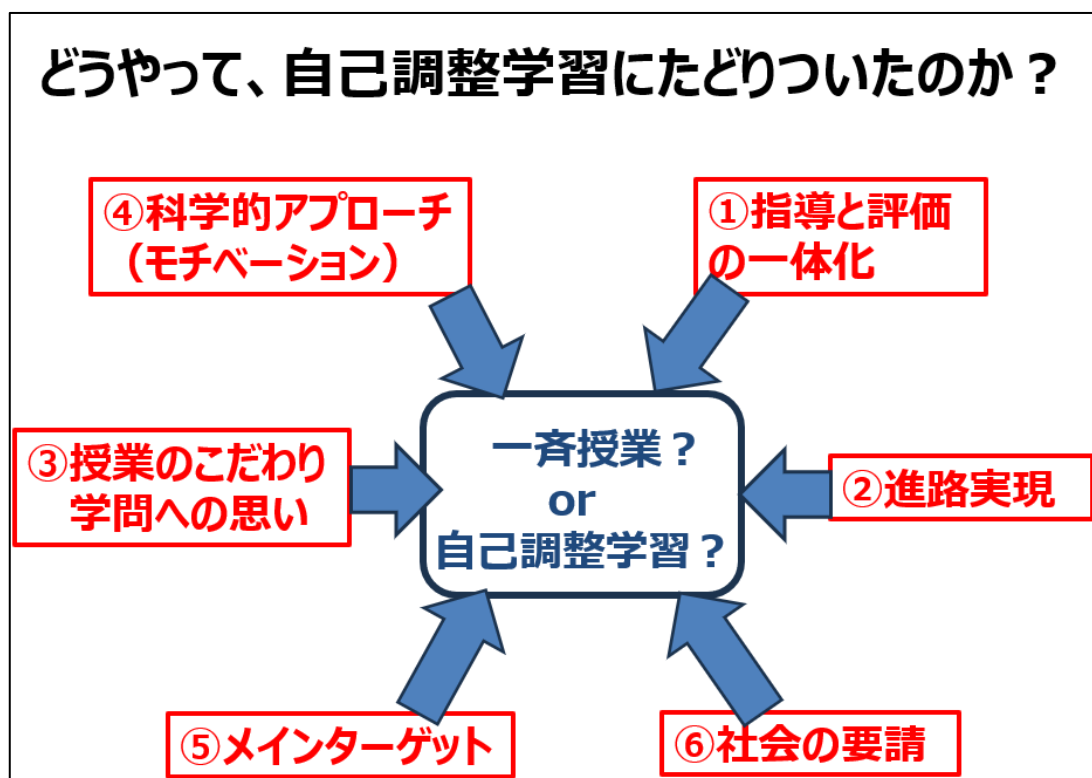
もちろん精査はしますが、なぜプライドを捨てられるのか？ 私はこう考えていて、説明に起承転結があるとしたら、自分が喋りたいのは転と結。教科書で教えている起承の部分はYouTuber に喋らせる。その上で「ところがね」とか「実はね」とおもむろに私が転と結を喋る。「ここを言いたい」というクライマックスまでは起と承ですから「今日、一番言いたかったのはここだ」という手前まではYouTuber に喋らせればよい、というイメージです。やはり動画だけではダメで、その5分10分の授業もものすごく大事だなと思わせるようなデザインをします。

数学や物理、化学などは教科書によって説明が変わることはないのでYouTube が使えるという理由ももちろんありますが、YouTuber 様様です。自分で作るのは可能ですが時間的に無理なので、これで全く問題ないと思っています。

もし、どうしても自分たちで作るならば、誰か1人がやるのではなく、教科総出で作ることが必須です。

### (3)どのように授業設計をしたのか？

私は、授業の中に何を盛り込みたいかをまず考えました。



最近だと、観点別評価を盛り込まないといけないというのが、まずあります。本校の場合は大学に何人入れるかという受験ゲームに勝たないといけないので、①と②はどうしても存在します。

次に③です。私がしたい授業という、授業者としてのこだわり。そして、物理学という学問そのものへのこだわりも、当然あります。

そして、先ほどの認知科学でもそうですが、生徒がどういう勉強をすれば効果的なのかという、④の科学的なアプローチ。

⑤のメインターゲットは、結局は生徒たちの学習効果が上がるかどうか。研究という意味もありますが、誰が困っていて、誰を幸せにしたいのかが根幹にあります。私の場合は女子生徒です。

そして⑥。今、社会が学校に何を求めているのか。そして学校が社会の中でどういう立場になっているのか。それを同時に持ち込んでいきたい。

最後に真ん中です。自己調整学習ありきではなく、これらを全部盛り込んで、一斉授業と自己調整学習はどちらがいいのかを考えます。50分の中で時間を分けて、この時間は自己調整学習になどと、逐一考えていくことが大事かなと思います。完全に自己調整学習だけにはめ込むのではなく、両方作ってみて「この単元はこっちがいい」とか「いや、この1時間では混ぜよう」とか。私はそのようにやっていました。

| ①指導と評価の一体化（進度が評価） |          |            |       |
|-------------------|----------|------------|-------|
| 知識・技能             | 思考・判断・表現 | 主体的に学ぶ姿勢   | 評価の種類 |
|                   |          | 導入ワーク      | 診断的評価 |
| 実験レポート            |          |            | 形成的評価 |
|                   | ☆≧OPPA   |            | 形成的評価 |
|                   | 思考力テスト   |            | 形成的評価 |
| 発展課題              |          |            | 形成的評価 |
| 単元末確認問題           |          |            | 総括的評価 |
|                   |          | ルーブリック自己評価 | 総括的評価 |
|                   |          | 導入ワーク更新    | 総括的評価 |
| 期末考査              | 期末考査     |            | 総括的評価 |

まず「①指導と評価の一体化」です。一番大事だと私が思っているのは、観点別評価をやるために授業を作ることです。自分の授業を観点別評価にねじ込むのではなく、観点別

評価のために授業をイチから練り直すという、つまり評価をするために授業を作るということが一番大事だろうと思っています。

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学ぶ姿勢」の3つは、このように1つの単元の中で評価するものを決めています。

## 知識・技能

1. 知識どうしを**比較**する。
2. 知識どうしを**つな**げる。
3. **定義**を正確にとらえ、活用する。
4. **経験したことの意味**を考える。
5. **言葉**を正確に使う。

最初に「知識・技能」とはなんぞやということですが、私の考えでは、いわゆる暗記は物理ではあまり重要視されず、いかに式を作っていくか、導くかが重要になっています。知識どうしを比較したりつなげたりできるか。サイエンスなので言葉の定義がうまくできるか。経験したことの意味を考えられるか。さらには、科学的に言葉を正確に使えるか。これらのことを知識・技能と考えています。それをどう評価するかが、私にとっての知識・技能の評価です。

## 思考・判断・表現

1. **生活文脈**の中にある。
2. **直感を制御**できる。
3. 既存の知識から、**新たな知識を創る**。
4. **間違いに気づく**。
5. **論述**が望ましい。

「思考・判断・表現」は、私が思うに必ず生活文脈の中にあります。例えば「サウナの温度は90度だけれど、なぜ火傷しないんだろう」といった、生徒の生活の中で考えられるようなものを題材にするということです。

次の、直感を制御できる。私は直感を制御するのは思考・判断・表現だと捉えています。例えば直感で言ってしまうところを、もう1人の自分が「ダメだよ。なぜならこうだから」と制御する。認知心理学でいうシステム1の直感を制御してシステム2で論理的思考をするというものです。しかし、直感を制御するには、先ほどの「3分考えて」ではないですが、とても3分ではできない。だから論理的思考をさせるには15分20分くらいの時間をかけないといけない。それを、いわばベルトコンベアで流しているような授業中に3分で考えなさいというのは、システム1を使えと言っているようなもの。特に観点別評価では、これを思考とは呼ばないと思います。

そして、既存の知識から新たな知識を創るとは、習っていないけれど新たな理論を自分で創り上げていくこと。

それから、間違いに気づく。自分の間違いに自分で気づく。あるいは問題自体の間違いに気づく。私の授業では、問題を出したときに「この問題のこの前提はどうなっていますか」という質問を生徒にさせるようにしています。例えば、「この2つの物体の質量は一緒ですか」「空気抵抗はどうなっていますか」という質問が出る。つまり、問題の前提の薄さに気づくようなことも、私の中では「思考・判断・表現」です。

さらには、一問一答のような答え方ではなく論述が望ましい。これも私の中での「思考・判断・表現」です。

## 主体的に学習に取り組む態度

～発揮するための環境の定義～

### 1. 目的と全体像の共有

→単元目標と単元を貫く目標をループリックに示し、常に目にできるようにする。

### 2. 十分な時間の確保

→試行錯誤・誤りの訂正、メタ認知的振り返り

### 3. 変容を評価する

→観点別評価・コンピテンシー評価

### 4. 自己を批判的に見る機会

→物理的（科学的）な眼

「主体的に学ぶ姿勢」ですが、生徒が主体的に学習に取り組むためには、まずは環境を整える必要があります。そのためには、単元の目標、今日の時間の目的、そして全体像を生徒がわかっていることが絶対条件です。

そして、試行錯誤とよく言いますが、これには絶対的に十分な時間が必要です。

次に、変容。先ほどもありましたが、まず答えてみて、その最初の答えをどんどんアップデートすることを評価します。

最後が、自己を批判的に見る機会。こういう科学的な眼を持つ状況を作らないと、そもそも主体性が発揮されません。

以上がスライド 16 の「指導と評価の一体化」です。観点別評価をするためには、一斉授業なのか自己調整学習なのかを考える必要があります。

次は「②進路実現」です。これは本校の場合ですが、進路実現が何よりも大命題になっています。東大合格者を何人出せ、という学校です。生徒の志望もあるので、私が自分のロマンで研究だけをやっているわけにはいかない。そこで、進路実現のためにスライド 20 にあるようなものをたくさん入れていきました。

## ②進路実現（完全習得型＋高次機能型）

- ☐ **5～10分間の補足説明**  
→動画見ていない生徒もふきこぼれの生徒も包摂
- ☐ **アクティブリコール（動画視聴後、授業終了後）**
- ☐ **動画に準拠しないワークシート**
- ☐ **演習は、説明動画なし（答と解説のみ配信）**
- ☐ **速くも深くもいける学習システムの提示**
- ☐ **協働して考えないと作れない成果物をチェックポイントにする。**
- ☐ **復習機能（他単元と繋がる）を盛り込む。**
- ☐ **授業時間をアウトプットメインにする。**
- ☐ **スキーマをつくることを意識させる。**

例えば3つ目。動画に準拠しないワークシート。最近のYouTube動画には、動画に沿ったワークシートがだいたい付属しています。特に電子黒板の悪いところは、生徒が持っているプリントを電子黒板にそのまま写して、そこに書くようになったこと。つまり生徒は配置で勉強していて、「先生がここに書いているからここだろう」と全然脳みそを動かさな

い。だから、動画とは順序も出方も全く違う、自作の別のプリントを準備しています。ですから動画を観たそのままでは、そのワークシートは取り組めない。いったん自分の頭で作ったものを、順番を決めて出していけないとできないような形をわざと作っています。

あとはここ書いてあるとおりです。復習機能を盛り込むのは、授業で復習し始めると授業が進まなくなってしまうことがある。でも、復習をプリントの中に入れておけば「ここをまず穴埋めしてからやって」などと、私が説明する必要がなくなります。

そして、やはり一番大事なのが「スキーマ」と呼ばれる、知識の塊を作ること。一つひとつの知識ではなく、知識の塊。先ほどシステム1の話をしました。最高状態は物理用のシステム1を作ること。こういう問題を見たらこう解くんだ、といった確固たるシステム1を作る。システム2の力を借りずにシステム1で解かないと、東大入試問題などは時間的に間に合わないですね。そういうスキーマを作るための取り組みとして、生徒は授業の最後に、先ほども話に出たアクティブリコールに必ず取り組むようにしています。今日学んだことを自分なりにまとめるわけです。

### ③授業のこだわり

- ◆伏線回収
- ◆起承転結
- ◆即時解決
- ◆即時評価
- ◆生徒と同じ目的に向かって進む。
- ◆誰も取り残さない
- ◆たくさん悩むことこそ勉強の醍醐味

「③授業のこだわり」は、いわば私のこだわりです。私が一斉授業をやっていたときに絶対やりたかったこと、やってきたことは、まず伏線回収です。授業の最初にポロッと言っておいて、忘れた頃に言っていたことが実はつながるという伏線回収をいくつも仕掛ける。

そして、先ほどもお伝えしましたが起承転結。

つぎに、物理だからかもしれませんが、即時解決・即時評価を私は一番大事にしてきました。本校は宿題禁止なのですが、まだ宿題を出していた頃にその宿題に解答をつけるかつかないかで数学の先生と論争になりました。数学の先生は、答えを見て書き写すから解

答をつけないと言います。でも、自分がわからなくなったときに「これ何だろう。答えが知りたい」と普通思いますよね。そのときに答えが見られれば、自分の解答が合っているのか知ることができる。おそらくその瞬間が一番学べるときだと、私は思っているんです。ところが、一所懸命で熱心な先生は一つひとつ添削するので、2日後くらいに返ってくるらしいんですね。悩んだ結果「知りたいこと」が2日後に返ってくると、生徒はもう興味がなくなっています。それはもったいないと思って、私は即時解決・即時評価です。

それから、私の授業には作成物があるのですが、集めません。ロイロノートの中で提出する。もちろん提出するタイミングはバラバラですが、私はすぐに結果を出して返します。それがマルにならないと次の授業に進めないの、進度が早いと評価が高くなるという設計を基本的にしています。生徒も自分の考えが知りたいという思いを持っていますから、生徒が作ったらすぐに返さなくてははいけません。そのために、50分間私がフリーであることは絶対的条件。つまり反転授業が必要になってくるというロジックになっています。

最近特に思うのが、やはりスライド21の下の3つです。

生徒と同じ目的に向かって進むのは、ものすごく大事だと思います。

そして、誰も取り残さない。

さらに、悩むことこそ勉強の醍醐味だという考え方を、私は取り入れたい。そして、そのための授業は一斉なのか自己調整なのかを考えるべきだと思っています。

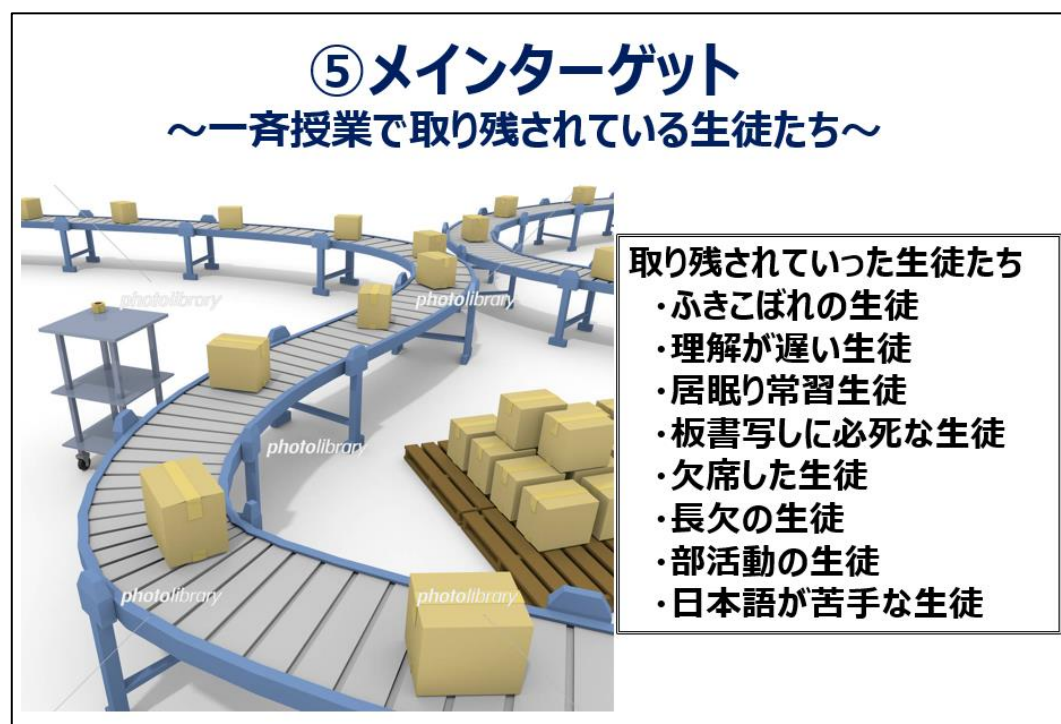
## ④科学的アプローチ ～「学び続ける」モチベーション～

- ①自分で**決められる**。
- ②**学ぶ側が見通し**を持てている。
- ③やることには**つきりとしたメリット**を感じている。
- ④**視聴覚による刺激**が豊富にある。
- ⑤**スモールステップ**の課題
- ⑥質問したいときに質問できる **(即時解決)**。
- ⑦解いたらすぐに、正解か不正解かがわかる **(即時評価)**。
- ⑧**他人の監視の眼**がある。
- ⑨**参加しているという実感、貢献しているという実感**
- ⑩**得点**

「科学的アプローチ」ですが、どうすれば生徒の「学び続ける」モチベーションが続くのかは、とても重要です。例えば、他人の監視の目とありますが、最近の学習管理アプリ

では「Aさんが勉強し始めました」と、名前は出さないのですが他の人が今現在勉強しているかどうかを知らせます。つまり、生徒にとっては他の人の動向が重要ならしいのです。だから「みんなもう勉強し始めてる。早く勉強しなきゃ」という、常にいい意味での他人の監視の目があることがモチベーションになると言われています。

こういうものをどれだけ取り込めるか。これを取り込むためには一斉なのか自己調整なのかを考える、ということですね。



「メインターゲット」は絶対に決めたほうがいいと思います。生徒の中の誰がターゲットなのかをはっきりさせる。デザイン工学のペルソナですね。この子が今一番取り残されている。この子が取り残されない授業を作るためには、どうするかを考える。

私がメインターゲットとしたのは「ふきこぼれ」の生徒です。授業を聞く前から理解している生徒ですね。

次に、理解が遅い生徒。板書を写すのに必死な生徒。この2つを合わせると多くの女子生徒です。私のメインターゲットはふきこぼれの生徒と女子生徒。授業のマイナーチェンジをするときに、この2パターンの生徒たちのアンケート結果を最重視します。

ふきこぼれの生徒への対応ですが、この子たちは私が渡した教材なんかはやりません。もちろん、取り組む教材は自由です。ただしいくつかの条件があって、OPPAシート（学習者が自分の学びを振り返り自己評価を行うための一枚のポートフォリオ）の中の論述問題は必ずやる。それと、発展問題は必ずやるように指示しています。どの教材を使ってもいいけれど、ここは必ず通るようにと指示します。なぜなら評価になるからです。

それから、補足説明の時間は起承転結の転結の部分を私が喋るので、そのときだけは必ず参加する。こういう生徒たちは、私が「今回はこんなことだよ」とまとめてから「何

かつけ加えることがあれば言って」と振ると、「これとこれ、これもつけ加えておいたほうがいいんじゃないですか」と返してきます。こうやってわざと参加させています。

さらなるふきこぼれ生徒のセーフティネットとしてファストパス制度というものがある、定期考査で学年上位5%内のスコアをし得た場合は、何も提出しなくても評価がAになります。

## ⑥社会からの教育への要請

**アクティブラーニング、観点別評価、探究、  
授業数減、SNS、コロナ、ICT、教員不足、  
教員定員割れ、VUCA、主体性……**



**一斉授業をやっているのは、途上国と日本ぐらい。  
一斉授業を持ち込んだアメリカは、すぐやめた。  
進学型通信校が進出してきたら……  
移民、留学生が増加したら……**

「社会からの教育への要請」です。いろいろな問題が学校に存在します。私は研究の中で大学の先生方とも話をしていますが、こんなことを言われました。

一斉授業をやっているのは途上国と日本ぐらい。日本に一斉授業を持ち込んだアメリカは、実はすぐにやめた、と。日本はアメリカの実験台になったのかどうか分かりませんが、日本には寺子屋という素晴らしい制度があったのに、学びの制度は少しおかしな西洋化をしていったのかなと思います。

ただ、一斉授業の背景には、日本が島国で移民を受け入れていないこともあると思います。言語が1つですむので、一斉授業でも成立してしまう。

これには私も苦い経験があって、ヨーロッパから生徒の家でホームステイしていた子が、数学と物理の授業を受けさせてくれと来たことがあります。いいよとは言ったものの、当たり前ですが私は日本語しか喋れない。字だから大丈夫と思ってその子も来たらしいのですが、2時間ほどで来なくなりました。

そのときは感じませんでしたが、日本が移民を受け入れて日本語を理解しない子が普通に授業を受ける時代になったら、一斉授業はおそらく成立しなくなる。それが起きているのが欧米なのではないかと思ったときに、今の一斉授業で本当にカバーできるのかと危惧

しました。あのとき自己調整学習をしていたら、その子も別の方法で学べたんじゃないかなと思います。

最近では進学型の通信制高校が存在感を増してきていて、昔は不登校の生徒が行くイメージでしたが、今はふきこぼれの子たちが行く。もしかすると本校の東大・京大なんて言っている生徒も、そのうちに通信制高校に行ってしまうのではないかと考えてしまいます。

つまり、そういう子たちは学校に何も期待していない。自分はずっともっと勉強したいのに、一斉授業でブレーキをかけられる。そんな授業を聞くくらいなら通信制に行くぞ、となる時代が来るのかなと思います。こういう社会の流れを見て「どっちなんだろう」と考えるのが私の設計の仕方です。

ただし、物理基礎から始めて大学入試の直前の対策まで、ずっと自由進度かというところと、違います。自由進度の期間と自由進度ではない期間があります。そこはやはり使い分けをしています。

### 3 自己調整学習を実践してわかったこと

自己調整学習を実際にやってみてわかったことを、最後にまとめたいと思います。

## 自己調整学習を実践してみて……

- 進度が速くなる（3か月ぐらい速い）。
- 演習量が増える（いろんな学びをする50分）
- 教師の側の心のゆとり
- 眠る生徒は、ほとんどいない。
- 生徒ひとりひとりがよく見える。
- 教える教員による差がなくなる。
- × 自己調整学習に合わない生徒がいる。
- × 聞くことに長けた生徒（高偏差値）は迷い中。
- × この学習に全員が慣れていない……
- △ すべての教科が実践したら……

進度は、やはり速くなります。一番遅い子でも、一斉授業をやっているときに比べて3か月ぐらい早くなりました。実は、自由進度をやっているのは2年生からです。2年生の4月の段階で、3年生までの教材全部がロイロノートにどっと出る。だから、すごいスピ

ードで進み始めます。東大・京大を目指す子たちは、先輩たちから「2年の3月くらいには教科書は終わっといたほうがいいらしいよ」などと聞いているので、自分で3月までに終わらせてしまうんですね。ですから速くなる。一斉授業のときは、そういう子たちもみんなと同じペースでやっていたと思うと、何だか恐ろしいです。

それから、教師の心のゆとり。一斉授業をしなくなって、私はものすごく体調がよくなりました。やはり一斉授業の不自然さがつらかったんですね。今は生徒と授業中いつでも話ができる。50分の中で生徒の悩みを聞ける。「ここがわからないんですけど」とか「何回やってもわからないんです」といった悩みを聞いて50分が終わる。そういう楽しさが一番大きいと思います。

もちろん居眠りする生徒ほとんどいません。以前の私の授業は結構ガチガチの一斉授業で、授業のあとはみんな机に伏せていました。でも今は学び方が全く違うので、疲労の度合いも違うようです。それがよかったなと思います。

そして生徒一人ひとりがよく見えます。授業の中身を生徒全員がわかっているように見えていたのに、テストをしたら実は全然わかっていない子がいたとか、よくあることです。が、本当の意味で生徒一人ひとりがよく見えるようになりました。

それに、教える教員による差がなくなります。研究の一環もあって、私が1年生から3年までの全部の教材を作って、他の2人の物理の先生に同じ教材で進めてもらっています。授業する教員の差も変数の1つとして入れ込んで研究しているのですが、基本的には教える先生によつての差は生まれません。出来合いの動画を使って、あとは生徒がやるだけです。

ただし、自己調整学習に合わない生徒がいるのも、やはり現実です。例えば本校のような学校だと、先生の授業を聞くことが勉強だと思っていて、それで実力をつけてきた子もいます。そういう子は、自己調整学習になかなか慣れない。1年くらいかかります。私もずっと追いかけているのですが、最初は、一斉授業と自己調整学習のどちらがいいかと聞くと、一斉7、自己調整3でした。全くの不人気です。それでも1年ちょっと経った先日アンケートを取ったら、9対1で自己調整学習が大逆転していました。それだけ慣れるのに時間がかかるのです。

当然そこには一定の不利益を被っている生徒がいます。しかし私はゲームチェンジとして割り切っています。一斉授業というゲームとは違うゲームが始まったのだから、当然利益を享受する生徒と損害を受ける生徒は変わる。一斉授業も同じだったと思います。これからの時代非認知能力やエージェンシーの面から考えても、一斉授業で黙って聞いているよりも、自己調整学習のほうが大事だと思えば、それに適応することが生徒側の努力すべきところだろうと思うのです。

次も同じです。聞くことに長けた生徒、高偏差値組と言われる生徒たちですが、ちょっと迷いが現れたりします。小学校中学校のときから一斉授業が主なので、やはり慣れていない。今は自由進度の小学校のほうが多くて、小学校中学校を回ってみると、逆にチョークアンドトークの一斉授業のほうが子どもたちは不慣れです。なぜ自己調整学習ではないのか、という時代になるのかもしれませんが、まだそこまでではないということですね。

もうひとつ、すべての教科が実践したら……です。これについては本校の先生たちとも

話したのですが、全部の教科が実践したら、それはそれで困る。いったいいくつ反転授業を生徒は家で観てこないといけないのか、となりますので、私も広めようとは思っていません。

最後になりますが、自己調整学習に必要な教員の資質があると思っています。

## 自己調整学習に必要な教員の資質

- ①仕向ける力（デザイン力）
- ②安心安全を確保するためのパーソナリティ
- ③どんな質問にも答えられる学問力
- ④自己責任で終わらせない。
- ⑤魚を与えるな。釣り方を教えよ。
- ⑥小さな質問や発見を教室全体の学びへ広げる力
- ⑦かけがえのない協働の場を作る力

まず、①の仕向ける力。いわゆるデザイン力と呼ばれるものです。「こうしなさい」と言うのは簡単ですが、「こうしなさい」と言わなくてもやるように教材を作れるか、そういう声かけができるか。直接言わずともそう仕向けられるデザイン力こそが、ものすごく大事になってくると思います。

②は、安心安全を確保するための、その先生自体のパーソナリティ。いつも怖い顔をした先生だと、やはり自由にはできません。「好きにやっていい」と言われても付度してしまって、「やっぱ先生のやつやろう」となる。自由に発言ができて、自由に先生に意見ができるようじゃないと、やはりダメだと思います。

③の、どんな質問にも答えられる学問力はとても大事です。私に「自己調整やってみたいです」と相談してくる若い先生がいるのですが、本当にやるとなったら50分間さまざまな質問にさらされることになる。本当に即時解決を担保できるのだろうか。

昨年話ですが、東大・京大を受験した生徒の何人かは2年生の1月くらいに教科書を終わらせて、そこからは大学の物理の教科書をやり始めました。そして、それについてどんどん質問してくるんです。私のルールは即時解決なので、それにも一発で答えられる力をつけていなくてはいけません。せっかく質問したのに、「ちょっと待って」だと「なんだよ～」となります。「もう学校来んで、自分で勉強するわ」となってしまいそうですよね。

④も大事です。生徒の自己責任で終わらせない。「あなたは私の教材じゃなくて別のもの

でやったんだから、自己責任ね」という発想は、私はよくないと思います。その生徒が主体的にやったことは悪ではなく善です。その善を尊重して「それをよりよくするにはどうするか。俺も一緒に考えるわ」という発想をすべきです。

⑤は私の好きな格言です。「魚を与えるな。釣り方を教えよ」とは、魚を与えても食べたら終わりだが、釣り方を教えたら一生魚が食べられる、というもの。そういう姿勢で生徒に対応したいですね。すぐに解答を与えるのではなく、「その答え、もうちょっと考えてみようか」という感じでしょうか。

⑥も大事で、小さな質問や発見を教室全体の学びへ広げる力、仕組みです。質問が必ず、しかも頻繁にきますので「今、こんな質問がきました。みんなどう思いますか」という共有を繰り返しています。私がパッと答えるのではなく、でも声が上がらない場合は、ふきこぼれの生徒に振ると「こうじゃないですかね」と応じてくれて成立するような状況をたくさん作ります。

そして⑦は、⑥を踏まえて、かけがえのない協働の場を作る力。「学校に来なくてもいいじゃん」とは絶対に言わせないような授業の作りにするということです。

以上のことがうまくいくかは、授業の中ではなく、準備段階で決まります。これらをいかに準備段階で作っていけるかが、とても大事だと思います。

そろそろ時間ですので、最後に。私のような授業のやり方は国語や人文社会系の教科にはあまり向かないと思っていたのですが、ある国語の先生が古文や漢文の句法でそれをやってみたそうです。私が合わないと思っていただけで、それぞれの先生がそれぞれの教科で専門的に見ると、意外とハマる單元もあるのかと気づかされました。今後はそういう面でも見ていただければありがたいと思います。

ありがとうございました。

## 授業実践研究会セッション

テーマ

自立型探究学習

市立札幌藻岩高校が目指す

「総合探究」を中心としたカリマネ～恋する生徒の作り方～

市立札幌藻岩高等学校 教諭

長井 翔 先生・千葉 建二 先生

産業能率大学 教授

齊藤 弘通

## 藻岩の総探とは

長井 今日、このセッションに来ていただいている皆さんは、総合探究に関心の高い方だと思いますし、学校でも先進的に取り組まれているのではないかと思います。生徒が積極的、主体的にやっている場面も割と多いと思いますが、こういう「あるある」の探究の生徒の姿があるのではないのでしょうか。

こんな”あるある”になっていませんか？

- ☀️「とりあえずやってる感じ ...」
- ☀️「先生が出したテーマに合わせて形だけ」
- ☀️「“正解”を探そうとしてる」
- ☀️「探究って、結局なんなの？って顔」
- ☀️「グループワークが“雑談の場”になってる」
- ☀️「ワークシートをこなすだけになっている」
- ☀️「“探究慣れ”していて、それっぽくはやれる」



ワクワクが、自走を生む。どうすれば？

これらを私たちもよく耳にします。とりあえずやっている感じ。先生がテーマを出してしまって、それに生徒が合わせているだけ。とにかく「正解」を探そうとしてしまう。そもそも「探究って何なの？」という顔をしながら、とりあえず時間を過ごしている。グループワークでの対話は協働的な学びの場だと思うのですが、雑談の場で終わってしまって、ワイワイやっているけれど中身が深まっていけない。今は小学校中学校段階からこういう対話的な学びが非常に多くなっています。ワークシートを埋めることにも慣れていて、それっぽくやるのがとても上手になっているという話も聞きます。

それに対して、生徒がワクワクしてのめり込んでいる、という声も聞かれます。ワクワクして自走して探究にのめり込んでいく姿というのが、やはり理想なのかなと思っています。

本校でもそういう生徒が、もちろん全員ではないのですが、少しずつ増えてきているという歴史があります。本校は1年生で1単位、2年生で2単位を、総合的な探究の時間として置いています。3年生は選択で取れるような形にしているので、全員でやるのは2年生までとなっています。現在の3年生が2年生のときの3月に、総合探究の授業を終えた最後にですが、あなたにとって「探究」とは？ と聞いてみました。

## 1-1 藻岩高校で総探を経験した生徒の「探究観」



あなたにとって「探究」とは？（現3年生の声）

### 1. 自己理解・自己発見

「探究は、自分探しの旅です」

### 2. 興味・関心の深掘り

「好きなことをとことん追求できる時間」

### 3. 将来との接続（未来志向）

「探究は、人生の舵を自分で取ること」

### 4. 主体性と行動

「やらされるんじゃない、自ら動くんだ」

### 5. 社会との関わり・貢献

「社会の一員として、自分から関わる」

### 6. 学びの広がり

「リアルな世界に触れる学び」

### 7. 対話・協働・関係性

「友達や大人と語って、考えが深まる」

### 8. 感情的没入・熱中

「探究とは、恋のような熱愛だ」

### 9. 挑戦・試行錯誤

「失敗を恐れず、やってみる。それが探究」

### 10. 視野の拡張・新たな価値観の獲得

「世界が広がる。価値観が変わる」

そのときの生徒のコメントを ChatGPT で分析してみると、こういうキーワードが出てきました。本校の生徒が感じている「探究観」とでも言うか、それがこの赤字で示しているところです。

「探究とは、恋のような熱愛だ」とか、「やらされるんじゃない、自ら動くんだ」とか、あとは「世界が広がる。価値観が変わる」といったいろいろな探究観を、生徒が実際に持っている。我々は生徒に、直接このような言葉で伝えることはほとんどありません。生徒のやってみたい探究に寄り添いながら、伴走しているだけなんです。けれども結果的に、生徒はこのような見方をしているということです。



ここからはリアルな事例をご紹介します。

これは、実際に生徒が活動しているときの写真です。笑顔で、ものすごくキラキラしていて、大人や子ども、障がいを持った方など、いろいろな方たちと一緒に活動している様子が見て取れると思います。

**千葉** では私から、自分がやりたいなと思ったことにのめり込んだ生徒のお話をさせていただきます。



見てのとおり、プラモデル大好きという男子生徒が1人いまして、写真の全員がプラモデル大好きというわけではないのですが、その生徒に賛同し、そして子どもたちに向けて何かをやりたいと考えた。例えばモノ作りを子どもたちに広めたいという課題・テーマを持った生徒たちが集まったものです。

この生徒たちは、自分がやりたいという思いが本当に強くて、私たちが何も手をかけることなく、探究をやり通していったんですね。特にプラモデルが大好きな生徒は、いきなりバンダイに電話をかけるという、私たちが心配するくらい行動力がある。もちろん門前払いだったのですが、そこで何をしたか。近くのおビショップ、模型店に足を運んで相談したところ、その店主がバンダイのプラモデルマイスターという資格を持っていて、その人に協力してもらうことになった。そうやってバンダイさんの協力も得て、自分たちが本当にやりたいプラモデルを子どもたちと一緒に作るというワークショップを、何回も繰り返していくんです。

子どもたちはものすごく楽しそうだし、生徒も楽しいし、模型店としてもプラモデルを広めるということになった。しかもバンダイさんは環境教育を実は進めていて、プラモデルのパーツを外したあとの枠、ランナーというのを集めて再生しているんですね。そういう取り組みにも目が向くような、自分たちがやりたいことが社会のためにもなっていくような、そういう事例になったという生徒たちのお話です。

長井 今の話の生徒は現在大学1年生になっている子たちなので、本校でも探究が成熟して、のめり込んでやっている先輩たちの姿も見ている子たちなんです。



ですが、この子は今年大学を卒業して社会人1年目なので、生徒みんなが探究にのめり込んでいるとは言えない時期の生徒でした。その子が当時、街づくりとはどういうものか知りたい、ということを書いてきました。

そこで、学校の近くに古くて小さな商店街があって、廃業した店舗も多いのでそこを地域の人たちが使えるコミュニティの場にしたいと活動している人がいる。リノベーションで壁を塗ったりする企画があるらしいんだが、行ってみる？ と伝えました。彼女は「なんか面白そう」と、好奇心で参加したのですが、商店街のおじいちゃんおばあちゃんに、「高校生が来た」と大歓迎されたそうです。それでまた楽しくなってきた、何度も通うようになりました。

その商店街のいろいろな課題なども聞いてく中で、何か自分たちでやることはないかと感じます。この4人のチームはみんなお菓子を作るのが趣味だったので、それで何かできないか。同級生にりんご農家の息子がいたので、そこでりんごを仕入れて写真にあるようなスティック型のアップルパイを作りました。商店街の近くに専門学校があったのですが、みんな素通りしてしまう。そこに食べ歩き文化を作れないかということで、開発して販売するというイベントを企画したわけです。

その中のひとりが竹田真唯さんで、校内で積極的に何かに参加して目立つようなことなく、成績が特段に優秀だったということでもなく、本当に普通の生徒だったと思います。

その彼女が3年生で自分の進路を考えると、ちょうどコロナ禍で、自分が本当にやりたいことは何だったのかと改めて見つめ直した。その当時、自分の活動を支えてくれたり関わってくれたりした地域の方々の温かさを思い出し、それが「自分はやはり街づくりに何か貢献できるような道に進みたい」となり、コミュニティデザインを学べる大学に進

学したのです。

彼女はスイーツを作ったりするのが好きでそれをずっと続けていて、Xやインスタに投稿していました。それがバズってフォロワーも13万人超えになり、レシピ本を出版するまでになりました。それが大学3年生のとき。今は大学を卒業して、フリーのフードクリエイターとして活躍しています。

最初の「楽しそうだな」というくらいの好奇心から、変容していった例として紹介しました。

## 藻岩の総探の内容

長井 では、ここからは少し具体的に、どのように本校の探究を作ってきたのかをご説明します。

本校の総合探究の特色はこの3つです。

本物に触れる、本当にやってみる、それを、ミライにつなげる。ものすごくシンプルな言葉でご説明すると、このようになっています。

特に1年次では、探究のスキルを学ばせるということは全然せずに、とにかく出会いを大切にしています。面白いものや人に会う。自分がどういうものに興味・関心があって、やってみたいのかという種に気づく。そういう出会いを大切にしています。

2年次の前半、11月くらいまでですが、自分のやってみたいことを実際にやってみる。その中で、地域社会に飛び込んでいって、いろいろな人と関わっていく。そんなことを進めています。

そして2年次の後半、冬の期間ですね、ただ体験して終わりではなく、その実体験をど

う価値づけていくのかを自分の中で振り返る。次の一步を自分がどう踏み出していくのかを考える、という内容になっています。

千葉 本校の探究の流れがどうなっているかを具体的に説明したいと思います。

| 2-2 各年次で目指す「生徒の理想の姿」     |                                                 |                                     |  |
|--------------------------|-------------------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
|                          | 1年後の「生徒の理想の姿」                                   | 教育活動のキャッチコピー                        |                                                                                     |
| 1年次                      | 自分軸を持っている<br>自分なりの興味関心・強みを持っている                 | つなぐ・つなげる出会いの連鎖<br>知や人との出会いにつながるの連鎖を |                                                                                     |
| 2年次                      | 自分軸を確立し、<br>未来への展望を持っている<br>自分と社会の未来の理想像を想い描いてる | 恋から始まる挑戦の連鎖<br>マイテーマから、学びへのつながりを    |                                                                                     |
| 3年次                      | 10年後の姿<br>未来に向けて<br>新たな価値を共創している                | 未来に向けて、学びを紡ぐ<br>学びを継り、自分色の糸をつくる     |                                                                                     |
| それぞれの糸が織りなされよりよい社会が共創される |                                                 |                                     |                                                                                     |

先ほど、本校の探究の特色について長井が説明しましたが、本校が単位制になるときの初年度に彼が年次主任をやっていて、そこからの3年間で作り上げたものが本校の探究の基本になっています。その基本をそれぞれの年次の主任が踏まえて、今はミライデザイン部となっている分掌を引き継いでいます。テーマやキャッチコピーも引き継ぎながら、そして改良しながら、それを学校全体のものにしていく分掌として位置づけられました。

| 3-1 1年次「探究基礎」                                                   |                 |   |
|-----------------------------------------------------------------|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1年次                                                             | 実体験を通して社会に目を向ける |                                                                                        |
| ① ニセコスタディーツアー<br>② 探究人toi-time<br>③ グローカル概論（SWGs × 探究人toi-time） |                 |                                                                                                                                                                             |
| 場=環境 と 人=探究人 の魅力に触れる                                            |                 |                                                                                                                                                                             |

まず、1年次の活動です。ここでは「探究基礎」として3つのプログラムをやっていきます。それぞれ人や場所との出会いをすごく大切にするプログラムで、見た目では結構似たプログラムになっています。

### 3-2 1年次「探究基礎」ニセコスタディーツアー2日間のコース別研修

ニセコリゾート観光協会と共創する「対話」と「体験」のプログラム

#### ①ニセコスタディーツアー

##### ①グリーンシーズンのニセコ

◆アクティビティ  
ラフティング、散策  
◆学習  
経営学、健康科学、社会学、文学、歴史学

#ニセコの自然を満喫したい人  
#教養しながらニセコの歴史と文学を知りたい人  
#紅葉家の本音を聞きたい人  
#移住に興味がある人  
#仲間とゆるやかに火をつけた人  
#チャレンジしたい人

##### ②発酵と自然の循環

◆アクティビティ  
農家体験、工場見学  
◆学習  
農学、生物学、経営学、経営学、食学

#有機栽培に興味がある人  
#理科(農学)に興味がある人  
#微生物に興味がある人  
#菌物に興味がある人  
#世界と日本の食通を知りたい人  
#経営に興味がある人

##### ③ニセコの農園

◆アクティビティ  
ワイン作り、農家体験、紅茶飲み比べ  
◆学習  
農学、経営学、経営学、商学、社会学

#特産物で地域おこしすることに興味がある人  
#自然が好き人  
#紅茶が好き人  
#大企業の話を聞きたい人  
#職人の話を聞きたい人  
#農業体験をしたい人

##### ④未来の山村づくり

◆アクティビティ  
フレグランス作り、散策、スプーン作り  
◆学習  
農学、生物学、経営学、商学、社会学

#自然が好き人  
#エコに魅力がある人  
#商品開発をしたい人  
#ものづくりに興味がある人  
#環境づくりに興味がある人  
#オシャレに興味がある人

##### ⑤現代アート

◆アクティビティ  
野外でのアート作り  
◆学習  
芸術学、社会学

#美術が好き人  
#デザインが好き人  
#数値することが好きな人  
#作家の話を聞きたい人  
#移住に興味がある人  
#アートで地域おこしすることに興味がある人

##### ⑥ニセコの観光資源

◆アクティビティ  
温泉入浴、スノーボード工場見学  
◆学習  
観光学、社会学、地学、健康科学

#ウィンタースポーツが好き人  
#温泉が好き人  
#ものづくりに興味がある人  
#理科(地学)に興味がある人  
#観光に興味がある人  
#趣味を仕事にしたい人

##### ⑦英語交流プログラム

◆アクティビティ  
国際交流、リゾートホテル見学  
◆学習  
地学、国際文化学、観光学、経営学、建築学

#英語は苦手だけど話せるようになりたい人  
#外国の子どもがやるゲームを体験してみたい人  
#外国の文化に興味がある人  
#外国の企業に興味がある人  
#留学に興味がある人  
#ホテルに興味がある人

##### ⑧6次化産業

◆アクティビティ  
アイスクリーム作り、エサやり体験  
◆学習  
経営学、社会学、国際関係学、農学、生物学

#スイーツが好き人  
#酪農(社会問題)に関心がある人  
#食ロスに関心がある人  
#生産-消費のシステムを知りたい人  
#酪農に興味がある人  
#動物のいのちに関心がある人

例えば、6月にニセコスタディーツアーという宿泊研修に行くのですが、その研修は地元のニセコリゾート観光協会さんと共創した「対話」と「体験」のプログラムになっています。ニセコの人たちの人となりや人生のストーリーなどに触れる「対話」をする。ニセコの人たちが作り上げている、例えばアクティビティや農業、林業を体験する。そういうコースを8つほど作って、生徒に選択してもらいます。

### 3-3 1年次「探究基礎」探究toi-time 2025

#### ②探究人toi-time

キラキラとした大人の  
motivativeなストーリー

大人こそ「問い」を持ち  
失敗を繰り返しながら  
挑戦・学び続けている

**佐竹輝洋さん**

#公務員の可能性  
#動物園と環境  
#SDGs博士  
#気候変動対策  
#フューチャー

**豊川大地さん**

#スポーツで英語の輪を  
#マルタスクール  
#ヨーロッパのキッズ  
#スポーツ  
#元プロフットサル選手  
#スロージョギング

**竹田真唯さん(本校卒業生)**

#SNSフォロワー数  
19万人超  
#料理研究家  
#レシピ本出版

**山本智史さん**

#洋乳製品メーカー  
#元中学理科教師  
#32歳からの英語  
#学習

**太田真介さん**

#校舎 東 建築運営  
#アートを身近  
#ふらっと立ち寄る場所に  
#ライブで味わえる感動を

**井上拓美さん**

#法人、大学受験失敗  
#20歳で起業  
#地方移住  
#官民共創プランナー  
#起業家

**伊久美聖紀さん**

#「いのちのきもち」のいき  
もち「たまひよ」などの雑誌  
#編集長  
#ラジオパーソナリティ  
#ひとがだいすき

**赤司辰子さん**

#創業する元校長  
#福島教育復興  
#地域キャリア  
#教育系オンラインサロン

**中村一樹さん**

#警の専門家第一号者  
#研究の魅力とは？  
#電気災害への備え、予測  
#防災教育

**柳瀬環美さん**

#剣道少女  
#バリスタ  
#林口20歳  
#セウビスト  
#地球と語る

**高瀬幸恵子さん**

#エゾシカ革アール  
#デザイン  
#役にたつアート  
#持続可能な自然と  
の共生

**大本親月さん**

#家族の創り  
#30代で起業  
#元TOYOTA社員  
#ミュージカル俳優  
への挑戦

**松永一樹さん**

#学生時代  
#転職エージェント  
#心は少年  
#アカペラ

**「学ぶ」ってワクワク・楽しいことなんだ！  
「挑戦・学び続ける人」って素敵！憧れる！**

次にやっているのが、探究人 toi-time。我々が「探究人」と呼んでいる、キラキラとして、挑戦し、学び続けているような大人たちに出会うというものです。もちろん、ニセコスタディーツアーでもそういう場面はありますが、そういう大人たちはどんな「問い」を持ちながら挑戦し、学び続けているのかに焦点を当てて、話を聞いたり対話をしたりするプログラムです。

その挑戦や学びの中から、自分でもやってみたいというものを見つける。あるいは、自分もこんな「問い」を持って、人生のあり方、生き方を考えていきたいと思う。そうなってくれたらいいなと思っています。

**3-4 1年次「探究基礎」グローバル概論2024**

**③グローバル概論**  
**SWGsのレンズで世界や地域を眺める、SWGs × 探究人**

|                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                        |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>Global ① 鈴木 直葉さん</b><br><b>NINAITE</b><br><br>地域を愛護して、世界を介抱に<br>医療従事者から外国人入国を支援<br>日本まで生活する外国人に寄り添う               | <b>Local ② 齊藤 いゆさん</b><br><b>DO FOR FISH</b><br><br>魚がいたる未来を築く<br>水産資源の活用 水産資源の活用<br>水産資源の活用 水産資源の活用   | <b>Global ③ 長田 俊輔さん</b><br><b>虹城力メラマン</b><br><br>写真撮影、フォトグラフィ<br>写真撮影、フォトグラフィ<br>写真撮影、フォトグラフィ                   | <b>Local ④ 石堂 敬太さん</b><br><b>加川赤十字病院・消化器外科医</b><br><br>消化器外科医<br>消化器外科医、消化器外科医<br>消化器外科医、消化器外科医                     |
| <b>Local ⑤ 酒下 淳子さん</b><br><b>cocole オースプランナー</b><br><br>本職はオースプランナー<br>本職はオースプランナー、オースプランナー<br>本職はオースプランナー、オースプランナー | <b>Local ⑥ 竹田 真唯さん</b><br><b>フードクリエイターズ</b><br><br>食のクリエイター<br>食のクリエイター、食のクリエイター<br>食のクリエイター、食のクリエイター | <b>Local ⑦ 塚本 直さん</b><br><b>ラジオパーソナリティ</b><br><br>ラジオパーソナリティ<br>ラジオパーソナリティ、ラジオパーソナリティ<br>ラジオパーソナリティ、ラジオパーソナリティ | <b>Local ⑧ 水野 莉穂さん</b><br><b>紅茶喫茶店byrneオーナー</b><br><br>ままのちいさい<br>ままのちいさい、ままのちいさい<br>ままのちいさい、ままのちいさい               |
| <b>Global ⑨ 田中 満天さん</b><br><b>ナイトdeライトドラマー</b><br><br>ドラムマシーン<br>ドラムマシーン、ドラムマシーン<br>ドラムマシーン、ドラムマシーン                | <b>Local ⑩ 大村 凌さん</b><br><b>株式会社FUJI 社員</b><br><br>電機系のプロ<br>電機系のプロ、電機系のプロ<br>電機系のプロ、電機系のプロ          | <b>Local ⑪ 水口 綾音さん</b><br><b>NPO法人防災しつけ 代表理事</b><br><br>防災しつけ<br>防災しつけ、防災しつけ<br>防災しつけ、防災しつけ                   | <b>Local ⑫ 渡島 てる子さん</b><br><b>7丁目のパウダールーム店長</b><br><br>美容師、Drag Queen<br>美容師、Drag Queen、美容師<br>美容師、Drag Queen、美容師 |

最後にやっているのが、グローバル概論です。これまでよりも踏み込んだもので、社会課題に向き合う大人たちというテーマで、こういう探究人たちには社会はどのように見えているんだろうというレンズの部分。そういうところに触れられたらいいと思って作っているプログラムです。社会と、よりつながりを密接にしていくプログラム構成になっているので、1年生のうちに思った、地域社会でこんなことをやってみたいという自分がワクワクするようなテーマを、実際に2年生の前半でやってみるという流れになっています。

## 4-1 2年次「MSP」



## 南区探究【今年で8年目】

**M** 藻 岩(Moiwa) × 南 区(Minami-ku)  
**S** 笑 顔(Smile) × 持続可能(Sustainable)  
**P** 計 画(Project) × 人々が集う場(Platform)

自分たちの「**やってみたいこと**」を、  
**地域社会**というリアルな場をフィールドとして、  
 地域社会の様々な人と関わりながら「**やる**」

それを我々はMS Pと称していて、Mは本校の名前にもある藻岩と、所在地の札幌市南区のM、SはスマイルとサスティナブルのS、そしてPはプロジェクトのPであり、この活動自体が、地域の方々がいろいろと行き交えるような場所つまりプラットフォームになってほしいという思いを込めて、こういう名前にしています。

## 4-2 MSP 授業スケジュール (2025年度計画)



理想のまちを想い描く

フィールドワーク

まとめと発表・提案

| Stage1            |      |   |     | Stage2 |      |   |     | Stage3         |       |   |     |
|-------------------|------|---|-----|--------|------|---|-----|----------------|-------|---|-----|
| 回                 | 日付   | 曜 | 時   | 回      | 日付   | 曜 | 時   | 回              | 日付    | 曜 | 時   |
| 1                 | 4/10 | 木 | 7   | 11     | 5/22 | 木 | 7   | 39             | 10/9  | 木 | 7   |
| 2                 | 4/11 | 金 | 5   | 12     | 5/23 | 金 | 5   | 40             | 10/10 | 金 | 5   |
| 3                 | 4/18 | 金 | 5   | 13,14  | 5/30 | 金 | 5,6 | 41             | 10/16 | 木 | 7   |
| 4                 | 4/24 | 木 | 7   | 15     | 6/12 | 木 | 7   | 42             | 10/17 | 金 | 5   |
| 5                 | 4/25 | 金 | 5   | 16     | 6/13 | 金 | 5   | 43             | 10/30 | 木 | 7   |
| 6                 | 5/1  | 木 | 7   | 17     | 6/17 | 火 | 5   | 44             | 11/6  | 木 | 7   |
| 7,8               | 5/9  | 金 | 5,6 | 18-24  | 6/18 | 木 | 1-7 | 45,46          | 11/7  | 金 | 5,6 |
| 9                 | 5/15 | 木 | 7   | 25     | 6/19 | 木 | 7   | 47,48          | 11/14 | 金 | 4,5 |
| 10                | 5/16 | 金 | 5   | 26     | 6/26 | 木 | 7   | 49             | 11/14 | 金 | 6   |
| 約70グループ<br>※個人活動有 |      |   |     | 27     | 6/27 | 金 | 5   | 50             | 11/21 | 木 | 5,6 |
|                   |      |   |     | 28     | 7/8  | 火 | 5   | 週2コマ<br>合計50時間 |       |   |     |
|                   |      |   |     | 29     | 7/10 | 木 | 7   |                |       |   |     |
|                   |      |   |     | 30     | 7/17 | 木 | 7   |                |       |   |     |
|                   |      |   |     | 31     | 7/18 | 金 | 5   |                |       |   |     |
|                   |      |   |     | 32     | 7/24 | 木 | 7   |                |       |   |     |
|                   |      |   |     | 33,34  | 8/22 | 金 | 5,6 |                |       |   |     |
|                   |      |   |     | 35     | 8/28 | 木 | 7   |                |       |   |     |
|                   |      |   |     | 36     | 9/5  | 金 | 5   |                |       |   |     |
|                   |      |   |     | 36,37  | 9/12 | 金 | 5,6 |                |       |   |     |
|                   |      |   |     | 38     | 9/19 | 金 | 5   |                |       |   |     |

今年は、先ほどのプラモデルのグループのようなチームが70くらいあって、それに個人活動もありでやっています。週2コマ、合計50時間くらいかけてやるのですが、ステージ1では実際にいろんな交流をしながら、例えば地域の人たちと相談会をしたり講演を聞いたりしながらテーマやチームが決まっていく。決まったらどんどん活動始めるチームもあれば、5月末くらいまで決まらない場合もあります。本校の探究の特徴でもあります。

個別に進度が全然違って、最後のステージ3で全体発表があることくらいしか、実は決まっていません。

ステージ2では、RA、リサーチアクションが4回あることは決まっていますが、特に学校に出てこなくてもいい。出てくるグループもありますが、かなりフレキシブルな働き方ができるMSPだと思っています。先ほどのプラモデルのグループなどは、当然土日に活動したり、放課後に模型店に行ったりしました。そういう、どんどん外に自立的に出ていく生徒たちが増えていきます。

| 4-3 MSPの変遷 生徒・学校・地域が変態① |                                                             |                                                             |                                                                  |
|-------------------------|-------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
|                         | 1年目 2018<br>「やってみる」                                         | 2年目 2019<br>「学校としてやる」                                       | 3年目 2020<br>「コロナでもやる」                                            |
| 生徒                      | 突然の地域探究へのギャップ<br>「先輩やってないのに…」<br>「南区に住んでないし…」<br>「勉強させてほしい」 | 受容・やりがい・成長実感<br>「まあ、やるもんだろう」<br>「南区にこんな魅力あるんだ」<br>「将来に役立つ！」 | MSPへの期待・枠をはみ出す<br>自走増(ちょっと暴走も)<br>「こんなプランあります」<br>「今週MSPないんですか？」 |
| 学校・教員                   | 批判的・懐疑的<br>「こんなの意味がない」<br>「やらせすぎだ」<br>「生徒の時間を奪うな」           | 受容・協力的<br>タスク・スケジュール管理中心<br>「昨年の生徒の変容は？」<br>「生徒にどう関わればいい？」  | チャレンジ・伴走<br>各教員が自由に考える余白<br>「〇〇してみたら？」<br>「△△もあるよ」という声掛け         |
| 地域                      | 協力・協働<br>・活動の場を提供<br>・地域のやり方を優先<br>・高校生への期待薄<br>・学校の取組への協力  |                                                             | 協働・共創<br>・活躍の場を提供<br>・生徒に任せてくれる<br>・高校生のアイデアがほしい<br>・高校生の成長に寄り添う |

もうひとつお話しておきたいのが、最初からこうではなかったということ。思い返してみると、私たちにもいろいろな反省点があって、MSPも変遷してきました。

私は初年度から担当させていただいたのですが、こっちも何が起こるか全くわからなくて、毎週金曜日が来るのが嫌だ、くらいの感じでやっていました。生徒からしても、「先輩たちがやってないのになんで」とか「探究の意味もわからない」とか「南区に住んでないのになんで南区のことやるの」という気持ちがあった。一応進学校なので「勉強させろ」という生徒たちも多くて、ただ、一所懸命やる子ももちろんいました。

批判的な先生も結構多かったので、心折れそうになりながら3年間作っていくという状態でした。生徒からは反対の署名運動も起きて、100人くらいの署名が集まって、総数は320人なんですけど、噂によるとそれを主導した先生がいるとかいないとか……。とにかく分断されている感じでした。

2年目には少しずつ、「こうやるものなのかな」という雰囲気が出てきて、3年目、コロナ禍が転機になりました。

私たち2人で担当する学年だったのですが、コロナ禍で生徒は学校に来ない。しかも、全員で一斉に何かすると、「集団で何やってんだ」となるような状況でした。そういう中で何ができるのかを考えました。

例えば私たちが YouTuber になって、いろんな大人たちをインタビューして回る。その際、リサーチアクション日に全員が出かけるのではなく、全員一緒に動かなくてもフレキシブルでいいじゃんという思い切りができました。こういうやり方が、実は生徒たちにはものすごくいい感触で、それぞれの進度に合わせた活動ができるようになった。私たちにもそういう感覚があって、生徒に任せてみようという勇気が出たと思っています。

そこからは加速度的に地域の感触も変わってきました。例えば月1回、藻岩高校卒のラジオ番組を1時間作っていただきました。それまでは地域の人たちと生徒の関係は、地域のボランティアという感じで受け入れてくださっていたのが、生徒が活躍できるような場をあらかじめ用意してくれるようになった。「こんなことやらないかい」という誘いがたくさんきたり、直接依頼してもNGだったのがOKになったり、少しずつ本校の活動が地域に溶け込んでいるという感触を私たちも持つようになりました。探究自体が生徒たちにとって誇りになってきたなという印象もありましたね。

最後に、実社会に出て挑戦し、共創することをマイテーマとして、持続可能な社会の中でどういう活躍を自分がしたいのか、どんな自分の姿を思い浮かべられるのか、実際に言語化します。そのプログラムがミライデザインです。



## 5-2 2年次後半「ミライdesign」 自分のコンパスを探す旅

### 「進路」を別の漢字で表現すると？

**ワーク4**

しん  
**信路**

□に入る漢字を考えてみよう



自分のコンパスを探す旅へ

### 「ミライを designする」とは？

進路選択・職業選択・○○選択  
**人生は選択の連続**

でも  
「人生」を選択するわけではない

色んな選択肢を組み合わせて、  
自分なりの「人生」をデザインする

札幌市立大学デザイン学部人間情報デザインコース3年

まづの デジタルデザイン 8 画パレマネーション まなみやんやんやんを お出合い お集まりの

自己紹介

まづの デジタルデザイン 8 画パレマネーション まなみやんやんやんを お出合い お集まりの

タイムラインチャート



本校の進路指導では、進路の「進」を自分が「信」じる道と定義づけて、自分の信じる路を選んで自分なりの人生をデザインするには、その方向を指し示すコンパスをしっかりと持たなくてはならない、としています。その上で、いろいろなプログラムをやっています。

## 5-3 2年次後半「ミライdesign」

### ①タイムラインチャート



### ②マイライフシート



### GOAL



### インタビュー人生ゲーム



### “人生＝学校”ではないように、 “人生＝仕事”ではない。 未来の余暇・遊びを 想像することは 将来を考える上でめちゃ重要。

### キャリアアンカーワークショップ

振り返り



- ・人生の「谷」がその後の活動の原動力になる
- ・幸福度の要素 1健康 2人間関係 3自己決定 4所得 5学歴
- ・先輩方のストーリーを聞いて「へーすごい」で終わらせない

「信路」の話をするとう仕事の話になって、職業観がどうのこうのとなりがちですが、未来では仕事の時間よりも余暇の時間のほうが実は長い。ですから、未来の余暇・遊びを想像することも、将来を考える上で重要だと思っています。そこで、余暇の過ごし方を考えるワークショップもやっています。例えば、大人を60名くらい集めて一緒に人生ゲームを

やる。ゲームで止まったコマの中身について生徒と大人でインタビューし合う、いわばインタビュー人生ゲームというものです。

そういう経験や今までやってきたことを思い返して、自分の生き方・あり方、自分は何をやりたいのかというウィル（will）を考えて、そのミライを思い描きます。

## 藻岩の総探の歩み

藻岩高校の総合探究はなぜこのような形になったのか、ですが、実は私もこの学校の卒業生でして、もともと文武両道の学校です。先生方もものすごく丁寧に手厚い指導をしてくれて、課題もたくさん出る。それで逆に学校に来られなくなる生徒もいたりする。そこはちょっと違うのかなと感じたのが、私が3年かけて探究のプログラムを考えようと思ったきっかけでした。

**6-1 市立札幌藻岩高校の特徴**

- **創立53年 全日制普通科(1学年6クラス)**  
THE中堅進学校、部活と大学進学実績に命

| 学校                                                     | 生徒                                              | 教職員                                             |
|--------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| ○文武両道の精神<br>○地元地域(南区)の期待<br>△教育理念の共有・共感<br>△学年・分掌・教科の壁 | ○素直で模範的<br>○真面目<br>△主体性、チャレンジ精神<br>△思考力、発憤力、対話力 | ○熱心な指導<br>○手厚い指導<br>△教職員間の対話不足<br>△指導の一貫性・統一性不足 |

↓

**総合的な学習の改革(2017～)**  
→総合的な探究の時間への進化・深化

変わり始める生徒

- **令和3年度入学生から単位制(6クラス)** 更に!?

そのときはまだ総合的な学習の時間だったので、私自身も「この中で何ができるんだろう」と、それこそ探究しながら苦しんでいた覚えがあります。しかし、だんだんと変わり始めた生徒たちが出てきて、その次の年度から長井が私たちのやっていたものを引き継いでくれた。それが、この学校のものになっていったという流れがありました。

## 6-2 総探のカリキュラムの作られ方



△ What・Do(何を) ➡ ○ Why・Be(なぜ)

### 総合的な探究の時間

↓ 細かい内容が定められていない ➡ 各学校が内容を定めることのできる唯一の授業  
◎ **学校教育目標の実現**を目指し、学校の特色づくりに大きな役割を果たせる時間

**藻岩はどうする？**

➡ **学校教育目標の見直し「未来像」の再定義**

最初は、何をしたらいいんだろうと考えながらやっていましたが、探究が変わっていくフェーズで、本校の学校の魅力も考えていくことになりました。というのは、本校が単位制になるということで学校教育目標を見直そうという流れがあって、単位制準備委員会ができました。その準備をする中で、何のために総探をやっていくのかという後ろ盾をしっかりとつけていったことが、探究が広まっていった大事な要因かなと思います。

## 6-3 藻岩高校が目指す「生徒の未来」の姿・「育む力」

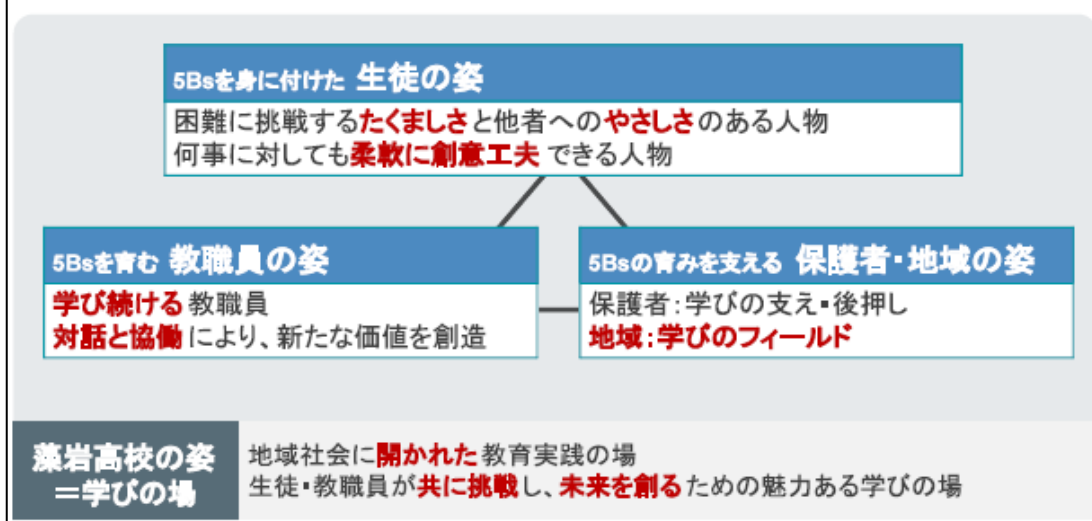


藻岩で育った  
生徒の未来の姿

**未来に向けて新たな価値を共創する**



## 6-4 目指す「未来の藻岩高校」の姿



その過程でできたのが、MOIWA 5Bs（ファイブビーズ）と呼ばれる、5つの力を伸ばしていこうというもの。その5Bsを身につけた生徒の姿、教職員の姿、保護者・地域の姿を具体的に思い描いて、その5つの力を伸ばしていこうという具体的な目標を、先生方と話し合って作れたのが大事な点だったと思っています。

### 総探による生徒の育ち

長井 それでは最後の締めに入りたいのですが、本校では2年次に取り組んでいるMSPが探究の中でも核になっています。

**地域探究とは？**

**問 次の口に入る助詞は？**

**地域探究＝地域口探究する**

**地域探究＝地域課題解決？**

ひと言で言ってしまうと地域探究ですが、参考になっているという学校の方がよく来られます。そのときにお示しするもので、地域探究イコール地域と探究の間にどんな助詞が入るか、というものです。

私たちがうまく説明できたかわからないのですが、地域課題を解決しているわけではなく、と理解していただけたと思います。プラモデルの事例を紹介しましたが、そんな課題は地域には全くない。地域の人や、プラモデルをやる子どもがいないことがこの町の課題だなんて絶対に考えないわけで、その生徒たちが持っている興味・関心から見たときに現れてくる課題なのかもしれません。

したがってここに入る助詞は、本校では地域「で」です。自分のやりたいことを、地域社会の中に飛び込んでリアルな社会の中で探究するという意味で、地域探究とうたっています。ここが実はものすごく重要なのではないかと考えています。

## 8-1 総括 「自分らしく社会に参加できる若者」を育むために



### 地域探究の再定義

**地域探究のゴールは「解決」ではない  
地域探究とは、「出会いと変容」の場**

- 地域の人・現場との出会い
- 自分と社会とのつながりに気づく
- 世界を見るまなざしが変わる
- 生き方や価値観を問い直す契機になる

**正解を探すのではなく、問いを深める。  
自分の中の「何かが動く」ことが、ゴール。**

そこで、地域探究という言葉の再定義しようと思っています。地域課題解決型の地域探究だと、解決することがゴールになってしまう。でも、それは違うので、地域探究とはやはり「出会いと変容」の場なのだと思います。

生徒の事例をいくつかご紹介しましたが、みんながみんな綺麗に進めるわけではなく、途中でうまくいかなかったり、テーマが変わったりしながら進んでいく場合もあります。

高校の2年間だけではうまくいかないこともたくさんあるのですが、卒業生が学校に来たときに言うのは、「高校時代にうまくいかなかったから、大学でまた同じ思いはしたくない。だから、大学ではいろいろな活動をもっと一所懸命にやっている」と。

こういう経験、つまり「出会いと変容」の場になっていることは、やはり重要なのだと思います。人との出会いや、そういう場との出会いで、自分と社会のつながりに気づく。うまくいかなかったらモヤモヤして、順調に進んでいる周りの生徒たちと自分の差を見る。そのときに、自分も社会と何かしらでつながっているんだと認識できます。

世界を見る眼差しが変わる。これもいくつか事例を出しましたが、自分の価値観とか生

き方を問い直す契機にもなっていると思います。ですから我々も指導するときに、生徒が持ってきたテーマを何とか達成させようとか答えに導こうとか、少しお節介が過ぎる部分ももしかしたらあるのではないかな。正解を探すのではなく、問いを深めていくような伴走の仕方でいいのではないかな。結果ではなく、その生徒の中で何かが動く、例えば人生観や価値観が動くということが、地域探究をやっていく中でのゴールなのではないかなと思っています。

## 8-2 総括 「自分らしく社会に参加できる若者」を育むために



### 進路と接続する探究

**リアルな体験から、自分の“信路”を描く  
探究は、「進路」ではなく「信路」をひらく**

- 興味や違和感に出会うことで、問いが生まれる
- 行動する中で、大切にしたい価値観が見えてくる
- 進学や就職の先にある「どう生きるか」に接続する
- 「進路＝選ぶ道」ではなく、「信路＝一歩踏み出す道」へ

**地域を“素材”にしない。**

**出会いから、自分の道を考える。**

私は今、進路主事という立場なので探究の推進の中核からは抜けているのですが、その立場で考えると、進路と探究は全く相容れないものでもないですし、壁を作って縦割りで「どっちがやるんだ」という話でもありません。同じ目標を目指していると思っています。

先ほどもありましたが、進路の「進」を本校では信じるの「信」で「信路」と生徒に言っています。つまり、自分のリアルな体験がなかったら信じられる路は見つからない。親や周りの大人から示される路を本当に信じられるのかというと、そうではありません。やはり自分の経験の中からコンパスを手にして、初めて信じて進んで行ける。そのためにこそ、探究という活動があるのではないかと思います。

自分の興味・関心もそうですし、違和感に出会うというリアルな経験も必要だと思います。その中で問いが生まれてくるし、価値観も見えてくる。進学や就職がゴールなのではなく、その後の自分はどう生きていくのかという大事なことに繋がっていくと思っています。

地域を素材にして地域を探究するのではなく、地域で探究する。地域でのいろいろな出会いの中から自分の道を考える。探究で実際に動いたあとに、自分の体験を価値づけして、最後にミライデザインという形に作り上げているのです。

## 8-3 総括 教育を共育・協育へ「これからの学校」



## × 地域・社会の課題解決をする人材を育成すること

○子ども達が将来自分らしく活躍できる社会になるよう  
大人も地域も社会も世界もみんなが変わっていくこと  
学校はそのためのプラットフォーム

そのためにやるべきことは

- ★ 生徒の**マイテーマの種**を大事に**芽吹かせる**こと
- ★ **「やってみたい」の種**を大事に**芽生えさせる**こと
- ★ その**芽**を絶対に**摘ませない**こと
- ★ ある程度**根が張る**まで、**環境を整える**こと

あとは生徒自身が自力で**自分色の花を咲かせるのを、そっと見守る**



実際のところ、最初は地域・社会の課題解決のようなものを、私はイメージしていました。しかし、生徒の伴走をしながらいろんな地域のことに関わる中で、地域のある方が子どもたちに語った言葉でハッとさせられたんです。

その方は教育とは全く関係ないお仕事をされていて、今どきの高校生がみんなSDGsという言葉を知っていることに衝撃を受けたそうです。そして「すごいね、今の子どもたちって。でもそんなのって大人が作った課題なんだから、あんたらが背負うわけじゃないんだよ。逆に大人を利用して、踏み台にして頑張きなさい」と言ったんです。それを聞いたときに本当にハッとして、「あっ、そういうことなんだな」と気づかされました。

学校は、子どもたちが将来自分らしく活躍できる社会になるように、大人も地域も社会も世界も、みんなが変わっていくためのプラットフォームになっていけばいいのではないかな。学校があることで子どもたちは集まってくる。そこでいろいろな大人が、我々教員も含めて、交わり合いながら子どもたちを育ていけるような場に学校がなればいいんじゃないかな。そう思っています。

いろいろ話が飛びましたが、本校の実践についてお伝えしました。ありがとうございました。

## 質疑応答

**質問者 1** 探究の時間が週 2 コマで設定されているというお話でしたが、自分の学校は各学年週 1 コマで設定していて、いろんな先生に聞くとそれぞれの学校でバラバラに設定されていました。それで、最初から週 2 コマだったのか、それとも途中で状況に応じて変えたのか、今後また変えていく予定等はあるのか、お伺いしたいです。

**長井** 本校が単位制になる前の 2020 年度の入学生までは、各学年 1 コマずつでした。それが単位制になるときにカリキュラムを考えていく中で、3 年生の 1 単位は取るのが結構苦しいという声が上がります。特に後半になればなるほど受験が近づいて、その時間に何をするんだ、みたいなことにもなりかねないということで、2 年生を 2 単位にしておもうとなりました。

実際にやってみると 2 時間連続枠を取ることもできるので、すごく展開が早い。木曜日の 7 時間目と金曜日の 5 時間目に設定していて、金曜日の 6 時間目がロングホームルームなんです。そこで、2 時間連続枠が欲しいと思ったら、木曜日の 7 時間目をロングホームルームにして、金曜日の 5、6 時間目を探究に充てるという、結構フレキシブルな使い方ができるようになった。そのおかげで、かなり進みがよくなりました。

実際のところ、3 年生は受験がある一方で年内入試なども増えてきていますので、それに取り組むためには 3 年生にも探究の時間があればよかったと思います。単位制なので、一応 3 年生も選択で取れるように、システム上はなっています。ただ実際は、誰も取りません。というのは、授業で縛られなくてもやるんですよ、自分たちで。逆に授業で縛られないほうが自由な時間にできる、ということのようです。

**齊藤** ありがとうございます。入試も早くなっていますから、どんどん早くやったほうが、探究の延長で入試にも展開できる可能性もありますしね。他にいかがでしょうか。これ聞いてみたいなのということがありますか？

**質問者 2** グループで取り組むときのフリーライダー対策ですね。探究のときにどこでも出てくる、フリーライダーについての不満の声みたいなものにはどういう対処をしていたのでしょうか。

**千葉** 校内で話題になったことは全くないです。答えに困ってしまうのですが、他の先生方からもその話題が振られたこともないなあ、という感じです。

**齊藤** それは、そういう生徒さんが存在しないということですか？

**千葉** 全く乗らないという生徒はあまりいないですね。外部から来た方たちは、本学の探究を見ると皆さんびっくりするんです。みんながごちゃ混ぜになっていて、何をやっているのか全くわからないけれど、よく見てみるとばけ一っとしている生徒はほぼいない。

最近は特に、先生方もめいっぱい動き回っている様子が見て取れて、「ああ、少しずつ変わってきたな」というのが私の印象です。

齊藤 最初からそうだったんですか？

千葉 最初は全然違って、ずっと座っている先生もいれば、本を読んでいる先生もいる。「何の本読んでるんだろうな」とか「本を読む時間じゃないんだけどな」とか思っていました、はい。

齊藤 最初は乗ってこない生徒さんもいたんですか？

千葉 もちろん最初は、先ほどの年表のとおりでした。そういう生徒のほうが、むしろ多かったかなと思います。

齊藤 それが徐々にカルチャーとして当たり前になってきているということですね。そういう雰囲気なので乗っていく、と。

千葉 そうですね。やらせようとしていないのでやらされ感がなく、自分たちのペースでやっている。しかも、どんな作業をやってもいいんです。特にICTが1人1台端末になってからは、それぞれのグループ内で自分のやりたいことが自分でできるようになったので、誰かに任せるといった感じはなくなった。協働作業もできますので、ICTもいい活用がされるようになったと思っています。

長井 今の質問の真ん中の答えではないですが、やっていく中でチーム解散とかトレードとかが起きるんですね。自分はちょっと違うとか、最初は同じようなものを目指していたけれど、やはりやり方とかやりたいことが微妙にずれるとか。なんだか、バンドが方向性の違いで解散するという感じです。

齊藤 面白いですね。

長井 はい、常に生徒自身も自分を主語にしながら取り組んでいると言えるのかもしれないです。

齊藤 なるほど、自律分散型組織になっているわけですね。それぞれが、やりたいことが近い人たちでチームを組んで、分散したり集積したりする動きもある、と。

千葉 友達どうしではなく、テーマで集まることが結構多いですね。

齊藤 ある意味、同じ問題意識を共有している人たちのチームということですね。実践共同体、コミュニティ・オブ・プラクティスのようなものが、学校の中で自主的に展開され

ている。面白いですね。

**千葉** テーマ決めが1年間プラス最初のステージ1で行われるので、1年生のうちからずっとそのテーマを続けているというのが特徴です。

**齊藤** なるほど、大変面白いですね。ありがとうございます。組織論になっているような感じがしますね。最初からではなかったようですが、現在では一人ひとりが自律的に、マイナ斯的に捉えずに展開するイメージになっているようです。

では他に、はい、お願いします。

**質問者3** 1年次の探究基礎で、社会人の方をたくさん呼びするとありますが、その方々は、基本的にはボランティアのような形で来ていただけるのでしょうか。それと、どうやって募集というか、声をかけて来ていただいているのか、そのあたりをお聞かせいただければと思います。

**長井** 交通費程度のお支払いだけです。大人の社会でそれで大丈夫なのか、と思うくらいですが、本当に交通費程度をお渡ししています。

どういう人を集めているかですが、私たちが生徒に会わせたいと思う人。私たちの推しの人を生徒たちに会わせたいというのが最初でした。ですから、どういう人物か私たちがちゃんとわかっている人ですね。最近ではいろんな方が紹介してくれるようになったり、生徒から「こんな人いるんですよ」と言ってきてくれたり、卒業生がつなげてくれたりという、いい循環に入っています。ただし、事前に一度、こちらの思いとか、本校ではこういうプログラムでやっていますとか、生徒にこういうことぜひ伝えてほしいといったことを必ずやり取りさせていただいています。

札幌という地域には面白い方が結構たくさんいて、そういう活動をされている方たちは皆さんつながっているんですね。ですから、「ようやく俺のところに来たか」という反応もあったりして、かなりたくさんの方に来ていただくことが今はできています。

**質問者4** 簡単で構わないのですが、このグランドデザインの基になるものはあったのかということと、何か参考にした本などはあったのか、それと、お2人が例えば異動でいなくなっても藻岩高校はこのMSPを続けられるのか、ということをお伺いしたいです。

**千葉** 最初はグランドデザインも何もなく、全国の先進的に地域探究をやっているいろいろな学校のいいところ取りをするところから始めました。とりわけ、昨年お亡くなりになった大正大学の浦崎太郎先生、岐阜で長年地域探究をやられていた先生のところに最初にお話を聞きに行き、大変なバックアップをしていただきました。それが、私たちの地域探究をかなりの部分で支えていると思います。

どこかの真似をしたわけではないんですが、少しずつアドバイスをいただきながら、最初は全く違う形でやっていたのが、だんだん今の形になっていったという感じです。

それから、私たちがいなくなっても続くのか、ですね。先ほども話しましたが、今、プログラム動かしているのは私たちではありません。私たちはほぼノータッチで、生徒の対

応をすることはありますが、プログラムを中心に回しているのはミライデザイン部です。私たちが中心に関わることはなくて、どちらかというと下支えしている感じです。ですから、私たちがいなくても、探究プログラムは回ります。

ただ、今頑張っようとしてることをどのように「信路」とつなげていくのか。さらに、年次ごとに違うものにならないようにするにはどうするか。年次ごとにそれぞれ情報交換しながら、よりよいプログラムにしていくことを分掌としてやっているので、そこさえできれば私たちはもういらなかなと思っています。早くいなくなっほうがいいくらいの感じですね、はい。

**齊藤** ありがとうございます。先生方がいなくなっても組織が回る仕組みが出来上がっている。毎年コンセプトを変えていくというのは、すごいことですね。だいたい前年踏襲でいいやとなりがちですが、そうじゃない。先生方に、コンセプトメイクをしっかりやれる人材が育っているということですよね。そういう組織体制を作られたところが大変素晴らしいと思いました。

ところで、先生方のお話をお聞きしながら、感じていただいた疑問や質問など、いろいろ全体でやり取りをさせていただきましたけれども、私からも1つ質問があります。

グループで地域探究とか探究活動をされているケースも多いと思うのですが、始める前にリーダーシップを教えるということはやっていらっしゃいますか？ みんなが自律的に動いているのは、シェアド・リーダーシップが機能しているからなんですね。シェアド・リーダーシップが発揮されている状態は自然発生的に出来上がったのか、それともそういうコンセプトを教えて、誰もがリーダーになり誰もがフォロワーになるという状態こそが素晴らしいチームなんだという、そういう全体像を共有した上でやっているのか、そのあたりを聞いてみたいのですが、いかがでしょうか。

**千葉** はい、私たちの探究の授業では、全くと言っていいほどリーダーシップについては触れてなくて、グループワークのやり方なども特に触れてはいません。これは本校のいいところでもあるんですが、こういう探究を続けていくと、「協力したい」と他校の先生方が藻岩に来てくれるようになってきました。そういう、探究につなげる授業をされる先生方が多くなってきて、その中で培われているのがリーダーシップだったり、対話をしながら共創していく力だったりなんだと思います。それらが探究を後押ししているんじゃないかなと、個人的には思っています。

ただ、私たちも定量的に計れていない部分もあるので、まだまだアプローチの段階ではあると思うのですが、そこをコントロールできるようになると、よりスムーズに探究が回っていくのかなと、今、お話を聞いて思いました。

## <まとめ>

齊藤 ありがとうございます。プログラムでやっているわけではないんだけど、そういう周りの先生方や関係者の方々の観察をしながら、自然に身につけている部分もあるのかもしれないですね。

私の資料でも札幌藻岩高校さんの取り組みをまとめたんですが、イノベーション人材の育成に似ていると感じました。私は経営学でも人材育成とかを教えているものですから、そういう切り口で紐解かせていただきました。

## 札幌藻岩高校が目指す人材像とイノベーション人材の類似性

### 「未来に向けて新たな価値を共創する人材」とは？

- ・ 未知の課題に向けて問いを立て、自ら学びを切り拓いていける人
- ・ 多様な他者と対話・協働し、共に価値をつくり出せる人
- ・ 常識にとらわれず、新しい意味や価値を生み出すことができる人

➡ 創造的・協働的・自律的な人材像

### 「イノベーション人材」とは？

#### 狭義

≡ テクノロジーやビジネスにおいて「革新的な製品・サービスを創出する人」

#### 広義

- ・ 社会的課題を発見し、他者と協働しながら新たな意味や価値を生み出す人
- ・ 「知識創造社会」に貢献する人材
- ・ 創造性・批判的思考・協働性・実行力を備える人

## イノベーション

- ▶ イノベーション:「革新」「新機軸」「新結合」
- ▶ 複数の要素を組み合わせ、従来にない価値を生み出す
- ▶ 同じ軌道内での量的な拡大ではなく、**新たな軌道への変更**
- ▶ 新たな軌道への変更のためには、パラダイム(ものの見方)を変え、当たり前を疑う必要がある

このイノベーション人材というのは、新しい軌道に乗せていくような人材です。そのた

めには物の見方を変えなきゃいけない、当たり前を疑わなきゃいけない。そういう人材です。そのときにやはり大事なのは、自分自身の物の考え方とか前提とか、そういうものを疑う姿勢です。

## イノベーションのために必要なこと

- ▶ 自らのものの見方・価値観・前提の意識化・相対化
- ▶ 既存の前提への疑問の投げかけと問題の再構築



- そのためには、自分自身を**異化**するための越境学習やアンラーニング(学習棄却)が必要となる

### 異化

- 自己の相対化、視点・視野の拡大、新たなモノの見方の獲得、従来のモノの見方の変容

### アンラーニング

- 時代に合わなくなった知識を捨て、新たな知識を組みなおす

## 越境学習とは

- ▶ 学習者が異なる価値観・文化・知識体系が存在する複数の「境界(boundary)」を行き来する中で、新たな視点や意味を獲得する学習のあり方
- ▶ **自分の領域とは異なる他者との出会い**を起点とし、他者との多様な関わりの中で、学習者が自分自身を相対化したり、自らの視野を拡大させたり、新たなものの見方を獲得していくこと(長岡, 2015)
- ▶ 自らが準拠する状況(ホーム)とその他の状況(アウェイ)の往還(石山, 2018)



- 自分の領域とは異なる他者との協働を通して、違和感を覚える体験を積み重ねる
- のこと。

▶ 10 出所:長岡徳(2015)「経営組織における水平的学習への越境論アプローチ」香川秀太・青山征彦編『越境する対話と学び』新曜社, pp.65-81、石山恒貴(2018)『越境の学習のメカニズム』福村出版, pp.38-39をもとに作成

水平学習とか越境学習とか、そういうコンセプトになってくるんだろうと思うのですが、藻岩高校さんの学習プログラムはまさに越境学習的だなと思いました。自分の領域とは異なる他者との出会いをどんどん作ってあげる。つまり、いろんな探究人と出会わせていく。こういうことが生徒さんにとっては、いろんな物の見方を獲得する機会になっているなと感じたわけです。

## 札幌藻岩高校の探究学習にある越境学習性

| 越境学習の構成要素    | 札幌藻岩高校の実践                                                         |
|--------------|-------------------------------------------------------------------|
| 越境対象の存在(他者性) | 自校の教師とは異なる職業人・価値観を持つ大人(探究人)との対話を通じて「異質な視点」に触れる                    |
| 実際の越境経験      | 探究人インタビュー、南区フィールドワークなど「教室」の外に出て、リアルな社会の課題・人々と関わる中で、役割や視点の揺らぎを体験   |
| リフレクション機会    | 越境によって得た違和感や気づきを振り返り、自分の価値観や将来像に結びつけるプログラム構造                      |
| 複数の文脈を接続する能力 | 「地域探究→キャリア選択」「探究人との対話→自分軸の形成」など、学校の学び(探究・進路)と地域・社会という異なる文脈間をつなぐ設計 |
| アイデンティティ変容   | さまざまな出会いや葛藤を通して、自分の役割や生き方を再定義していく探究的自己形成(「自分軸の芽生え」から「自分羅針盤」へ)     |

札幌藻岩高校さんの中にある越境学習性を紐解いてみます。

今申し上げたように、自校の教師とは異なる、職業人や価値観を持つ大人と対話をする機会を持たせる。あるいは、探究人インタビューや南区フィールドワーク、教室の外に出てリアルな社会課題に触れるという、実際の越境経験をさせています。そして、その振り返りのリフレクション、地域探究とキャリア選択、探究人との対話から自分軸の形成という文脈を接続させていく。そういう異なる文脈をつなげていくような力を育てています。

その結果、自分は街づくりで活躍していくんだといった、いろんなアイデンティティの形成にまでつながっていく。越境学習が最終的に目指す姿は自分のアイデンティティの変容ですから、そういったところまで視野に入れた、ものすごく練られたプログラムだなと感じました。

## 探究を支える札幌藻岩高校の教師像

|                                      |                                                                                          |
|--------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>ジェネレーター</b><br>(問いと越境を生み出す仕掛け人)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>新しい問いを仕掛け、周囲を巻き込んで場を立ち上げる人</li> </ul>             |
| <b>共に面白い人</b><br>(探究をともに楽しむ学びのパートナー) | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒と同じ目線で未知を楽しみ、探究のプロセスと一緒にワクワクしながら進める人</li> </ul> |
| <b>意味の媒介者</b><br>(学びの世界をつなぐ翻訳者)      | <ul style="list-style-type: none"> <li>異なる世界の人や価値観をつなぎ、越境の意味や面白さを翻訳して届ける人</li> </ul>     |

そんなプログラムを支援する先生方は、ジェネレーターであり、共に面白い人であり、異なる世界の人々の価値観をつないで生徒さんに翻訳して届けてあげる翻訳者でもある。従来の教師像とは全然違うなという印象を受けました。

## まとめ

- ▶ 教師は「越境を設計する担い手」として、学びの場をつなぎ、新たな問いを生み出すことが求められる。
- ▶ しかし、それは単なる“裏方”にとどまる役割ではない。
- ▶ 教師自身が、未知を楽しみ、越境し続ける学び手であること。その姿勢こそが、生徒の探究意欲を引き出し、「自分も問いを立ててよい」「自分も世界とつながっていい」という感覚を育てていくのではないか。

先生方も一緒にやっているという事例もありましたね。皆さん、単なる裏方じゃなくて自分たちも楽しんでいるところが、生徒さんにとっても「ああ、ここまでやっていいんだ」

とか「こういうふうにも大人もやってるんだから、自分たちもやろう」という感覚を育てているのではないかと感じました。

ということで、私は企業の人材育成の研究をしているのですが、企業内の社員の育成、とりわけイノベティブな人材の育成にもつながる、非常に素晴らしい取り組みだと思いつきながらお話を伺いました。

では、本日は先生方、お忙しいところを誠にありがとうございました。

---

第 18 回キャリア教育推進フォーラム 報告書

次期学習指導要領のねらいを探る

「一人ひとりの生徒を主語にする学び」とは 今からどのように取り組むか

東京／自由が丘開催

発行日 2025 年 10 月  
発 行 産業能率大学 入試企画部 企画課  
〒158-8630 東京都世田谷区等々力 6-39-15  
TEL03-3704-0731 FAX03-3704-9766  
<https://www.sanno.ac.jp/>

(禁無断転載・転用・複写)

---